

12月5日（月曜日）

第2日目

---

---

平成28年12月5日（月曜日）

---

## 議事日程第2号

平成28年12月5日（月曜日）

開 議 午前10時

第1 一般質問

質 問

応 答

散 会

---

## 本日の会議に付した事件

日程第1 一般質問

1. 佐藤 健一 君

(1) タイ王国・台湾へのトップセールスについて

- ・ タイ王国・台湾へのトップセールスの現在の成果と見込みについて

(2) 10月に樹海ドームで開催された各種イベントについて

① 各種イベントの集客数と経済波及効果

② きりたんぽまつりではお客様が長蛇の列をなしていた。お客様が多く並んでいるからといってサービス低下はあってはならない

(3) TPPについて

- ・ 今もその考え方に変わりはないのか

2. 吉原 正 君

(1) 最近の農業情勢と市農政の課題

① 一連の農協改革提言に対して、市長はどのような見解をお持ちか

② 減反政策の見直しに関して

③ 農業の担い手対策について

④ 比内地鶏糞処理施設の処理能力の改善について

⑤ 福原農政への期待について

(2) 「安心して暮らせるまち大館」を目指した高齢者福祉について

① 2025年問題についての認識と対応について

② 地域包括ケアシステムについて

③ 総合事業について

④ 社会活動参加と介護予防について

- (3) 移住促進について
    - ① 手応えのほどは
    - ② C C R Cについて
  - (4) 学校統合後の校舎利活用について
    - ① 今までの取り組み状況は
    - ② 利活用の実現に向け、本腰を入れて地元との会合を持ちながらそれぞれの校舎・地域にふさわしい方向に向けて、エンジンを再スタートすることを強く望みたい
3. 佐々木 公 司 君
- (1) 鳥インフルエンザ（H5型）の対応について
    - ① 監視対応と初動対策は万全か
    - ② 被害拡大防止体制は
  - (2) 交流人口拡大について
    - ① 日本経済研究所の一般社団法人秋田犬ツーリズムに対する報告書への対応は
    - ② コンベンション協会等のような組織が必要だと考えているが
    - ③ 全国プロモーションサミットの誘致は
    - ④ インセンティブ旅行の誘致は
    - ⑤ インバウンド対応は
  - (3) あきた未来づくりプロジェクトについて
    - ① 観光交流センター「(仮称) ハチ公の駅」は、長期的な展望に立ってコンスタントに集客できる施設であることが望まれるが大丈夫か
    - ② 大型観光バスが多く駐車できる道の駅としての整備計画は
  - (4) 秋田犬ツーリズムのテーマ「秋田犬」について
    - ① 渋谷での秋田犬と触れ合えるイベントでは、ほとんどの人が「あきたけん」と呼んでいた
    - ② 秋田犬を取り巻く環境が随分と変わってきた
  - (5) 「明日の日本を支える観光ビジョン」について
    - ① 広域観光戦略について
    - ② 北東北における観光プランについて
    - ③ インバウンド時代の国立公園満喫プロジェクトについて
    - ④ 世界遺産（白神山地）や森吉山県立自然公園等の活用
  - (6) 片貝家ノ下遺跡、大館城・武家屋敷跡の今後の活用について
    - ① 10月29日「平安時代の北秋蝦夷社会シンポジウム」
    - ② 11月13日「片貝家ノ下遺跡見学会」
    - ③ 11月26日「大館城跡発掘調査現地説明会」

(7) 大館郷土博物館の拡充整備について

- ① 大館郷土博物館はピカーではないかと思う。多くの人(県内外・インバウンド客)を呼び込むためにもさらなる拡充整備が必要と考えるが
- ② 展示物の耐震対応について

4. 佐藤久勝君

(1) 大館・鹿角医療圏の近い将来を見据えた病院のあり方について

- ・ 総合病院・扇田病院・労災病院・かづの厚生病院、そして秋田県を交えて独立法人化した医療の将来構想の議論をスピード化し、圏域の医療体制の整備を着実に進めてほしい

(2) スポーツによる地域の活性化について

- ① 全国規模のスポーツイベント実施による地域活性化について
- ② スポーツ施設の整備と利活用について
- ③ オリンピックまで見据えたスポーツ合宿の誘致について

(3) 新庁舎の建設費について

- ① 基本計画で示されたとおりの事業費でおさまるのか
- ② 事業費が大幅に膨らむことになった場合、現在の計画をどうするのか
- ③ 市民の声や働く職員の意見を反映させ、大館の象徴となるような庁舎にしてほしい

5. 阿部文男君

(1) 観光交流拠点としてのハチ公の駅建設とDMOの進め方について

- ・ 観光まちづくりとは、観光による交流人口の拡大を通して住民の暮らしの質の向上を目指すものである

(2) 歴史まちづくりについて

- ・ 地域の歴史を後世まで残していく手だてを考えていただきたい

(3) 災害対策拠点としての大型道の駅の必要性について

- ・ 地方創生・災害対策の拠点としての役割を担う大型道の駅の設置計画を

---

**出席議員 (26名)**

1番	石垣博隆君	2番	日景賢悟君
3番	武田晋君	4番	小畑淳君
5番	虻川久崇君	6番	中村弘美君
7番	畠沢一郎君	8番	伊藤毅君
9番	阿部文男君	10番	小棚木政之君
11番	藤原明君	12番	田村儀光君

13番	佐藤久勝君	14番	仲沢誠也君
15番	斉藤則幸君	16番	小畑新一君
17番	明石宏康君	18番	佐々木公司君
19番	吉原正君	20番	佐藤健一君
21番	田中耕太郎君	22番	相馬エミ子君
23番	岩本裕司君	24番	佐藤眞平君
25番	富樫孝君	26番	菅大輔君

---

### 欠席議員（2名）

27番	佐藤芳忠君	28番	笹島愛子君
-----	-------	-----	-------

---

### 説明のため出席した者

市	長	福原淳嗣君
副市	長	名村伸一君
総務部	長	北林武彦君
総務課	長	虻川正裕君
財政課	長	阿部稔君
市民部	長	成田政則君
福祉部	長	田村正行君
産業部	長	一関雅幸君
建設部	長	佐藤伸雄君
会計管理者		佐々木修君
病院事業管理者		佐々木睦男君
市立総合病院事務局長		斎藤進君
消防	長	佐藤久仁君
教育	長	高橋善之君
教育次長		安保透君
選挙管理委員会事務局長		小林淳一君
農業委員会事務局長		山口由秀君
監査委員事務局長		小林浩君

---

### 事務局職員出席者

事務局	長	花田一美君
次	長	畠沢昌人君

係	長	長	崎	淳	君
主	查	伊	藤	雅	君
主	查	高	橋	琢	君
主	查	北	林	亘	君

---

---

## 午前10時00分 開 議

○議長（仲沢誠也君） 出席議員は定足数に達しております。

よって、これより本日の会議を開きます。

本日の議事は、日程第2号をもって進めます。

---

---

### 日程第1 一般質問

○議長（仲沢誠也君） 日程第1、一般質問を行います。

一般質問の質問時間は、再質問を入れて1人40分以内と定めます。

質問通告者は9人であります。

質問の順序は議長において指名いたします。

なお、この際、質問者に申し上げます。質問制限時間10分前に予鈴1つ、5分前に予鈴2つをもってお知らせいたしますので、よろしく御協力をお願いいたします。

さらに申し上げます。再質問から一問一答方式で行われる方は、再質問の冒頭、自席で申し出をした上で、一般質問要旨の大項目単位で同一議題をまとめて行うよう申し上げます。

---

---

○議長（仲沢誠也君） 最初に、佐藤健一君の一般質問を許します。

#### 〔20番 佐藤健一君 登壇〕（拍手）

○20番（佐藤健一君） おはようございます。いぶき21の佐藤健一です。一般質問で登壇するときにはいつも緊張しておりますが、きょうはトップバッターであること、そして田代地域の行政協力員の方々が傍聴にいらしているということで、大変緊張しています。それでは、通告に従いまして3点について質問いたしますので、よろしくお願ひしたいと思います。

1点目、**タイ王国・台湾へのトップセールスについて**。福原市長が就任されて以来、1年6カ月余りが経過しましたが、「市長の行動力にはびっくりした」という市民の賛辞の声が上がる一方、幾度かの外国訪問の目的と結果について市民の質問を受けることが多くなりました。「市長は今、インバウンド——訪日観光客をふやすため、トップセールスにたびたび行っている。そのうち成果が上がる」と私は説明していますが、結果を急ぐ余り、納得しない市民が多いことも事実です。そこで、市長に**タイ王国・台湾へのトップセールスの現在の成果と見込みについて**お伺ひいたします。

2点目、**10月に樹海ドームで開催された各種イベントについて**。10月、樹海ドームでは秋田県市町村対抗駅伝、きりたんぽまつり、圏域産業祭、新・秋田の行事、肉の博覧会が開催されました。私は全部に参加しましたが、お客様の多さときりたんぽまつり・産業祭での子供たちの活躍に大変感動しました。そこで、市長に**①各種イベントの集客数と経済波及効果**をお伺ひします。

また、集客数が多いと必ず不満が出されます。今回も駐車場に対する不満が県内外のお客様から多く聞かれました。市長、駐車場増設の考えはないのでしょうか。さらには「肉博」、特に②きりたんぼまつりではお客様が長蛇の列をなしていました。そのためか、サービス低下の評価について、例えば「セリが生のまま添えられていた」などという声が市内の方々からあり、また、弘前市の菊と紅葉まつりに行ってもこのような声がありました。**お客様が多く並んでいるからといって、そのようなサービス低下はあってはならないことだ**と思います。それらの対策について反省会でも出されていたようではございますけれども、出店数の増加等の考えはないのか、市長の考えをお伺いいたします。

3点目、**T P P**についてです。次期アメリカ大統領のトランプ氏がT P Pからの脱退を公言している中、我が国では承認案が衆議院で強行採決され今参議院で審議されていますが、12月9日で自然成立の様相を示しています。なぜ、それほど急ぐのか私は疑問でなりません。以前、市長にT P Pについて質問したときの答弁は「T P Pは開国だ。積極的に推進するべき」という趣旨でしたが、**今もその考え方に変わりはないのか**、農業政策とあわせてお伺いいたします。

以上で、私の一般質問を終わります。御清聴ありがとうございました。(拍手)(降壇)

#### 〔市長 福原淳嗣君 登壇〕

○市長(福原淳嗣君) ただいまの佐藤健一議員の御質問にお答えいたします。

1点目、**タイ王国・台湾へのトップセールスについて。タイ王国・台湾へのトップセールスの成果と見込み**はについてであります。昨年に引き続き、ことしも県知事を団長とするタイ王国及び台湾でのトップセールスに同行し、改めて継続してトップセールスを行うことが効果的な観光PRとなり、観光客誘致につながると実感しております。トップセールスには、県知事や県内の首長だけではなく、県内の商工団体・教育機関・金融機関の代表者なども参加しており、観光面に限らずさまざまな分野での交流が図られております。また、現地の政府機関や金融機関などとの意見交換を通じて、昨年は県とタイ政府などが連携したタイ・秋田県関連企業支援ネットワークの設立や、県と台湾経済部工業局との産業連携に関する覚書の締結が行われたところであります。これは「ものづくり」の大館を目指す上で非常に重要なことだと市長として認識しているところであります。ことしは、タイ王国スポーツ庁での秋田スポーツ合宿誘致活動や旅行会社への個別訪問、台湾ではチャーター便誘致の働きかけ、本市と高雄市の中学校間での教育連携交流の提案などのほか、秋田犬ツーリズム独自の活動として、本市出身で台湾の初代商工会議所会頭を務めた木村泰治氏の足跡を深掘りし交流推進を図るため、関係者と面談しております。これらの成果として、タイ王国では本市で撮影された秋田犬動画が週1回定期的にテレビ放映されるなど、秋田、ひいては大館の認知度が高まっているほか、10月に開催された新・秋田の行事においては、台湾から2団体が参加して伝統芸能が披露されるなど交流が着実に深まってきております。このように、徐々にではありますがトップセールスの



成果があらわれてきており、来てもらうためには、まず、こちらから出かけるということ。また、昨年ことしと県知事に同行したことが、本年10月のイベント誘致に結びついたものと考えております。また、先般弘前城の菊と紅葉まつり開会式に出席した折、弘前市もタイ王国・台湾をターゲットに動いているとのお話を葛西市長から伺う機会がありました。歴史まちづくりでの弘前市との親和性・緊密性に加え、インバウンド政策上の近似性も深まることは、東京オリンピック・パラリンピックまでに東北全体のインバウンドを3倍にするという国策にも合致するものと考えております。今後も県知事を先頭に各自治体や産業・経済・教育などの機関が一体となって行動・連携し、秋田県全体のために大館が果たすべき役割、ふるさと秋田のために我が大館ができることを見きわめてまいります。

2点目、**10月に樹海ドームで開催された各種イベントについて。**①**各種イベントの集客数と経済波及効果について**であります。樹海ドームでは、10月2日のふるさとあきたランを皮切りに、8日から10日までの本場大館きりたんぽまつり、22日、23日の大館圏域産業祭、締めくくりとして29日、30日の新・秋田の行事と肉の博覧会の同時開催と、多くのイベントが開催された1カ月でありました。それぞれの集客数については、ふるさとあきたランは前日から開催されたご当地自慢フェスティバルとあわせ、過去の大会を大きく上回る延べ4,000人、きりたんぽまつりは昨年とほぼ同じ13万人、大館圏域産業祭も昨年並みの3万6,000人となり、新・秋田の行事と「肉博」については11万3,000人と、1日平均ではきりたんぽまつりを上回る多くのお客様に御来場いただきました。きりたんぽまつりの経済波及効果は10億円を超えると推計しており、新・秋田の行事と「肉博」の経済波及効果については現在集計を行っているところでありますので、御理解を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

②**きりたんぽまつりの集客数が多過ぎ、サービス低下の評価があるがどうか**についてであります。きりたんぽまつりの来場者増加に伴う課題につきましては、さきに行われた実行委員会の反省会でも話し合われたところであり、担当ごとにきめ細かな報告がなされ、課題ごとに改善を図り次回開催へ生かしていくとうかがっております。駐車場の問題については、きりたんぽまつりに限らずドームでの大型イベント開催時にはすぐに満車となり、お客様には御不便をおかけする状況が続いております。お客様にはシャトルバスの利用に御協力いただいたほか、今回初の試みとしてドーム前道路の一方通行化を大館警察署の御協力のもと実施し、渋滞緩和に成果を上げたところであります。しかしながら佐藤議員御指摘のとおり、駐車場不足の解消はイベント主催団体の努力だけでは限界があるため、市としても周辺駐車場の確保について検討を進めているところであります。また、会場内ではこれまでにない長蛇の列が複数でき、お客様を大変にお待たせする事態となりました。実行委員会では、総出店数が増加する一方で、きりたんぽ出店数は頭打ちとなっていることも一因と考えており、きりたんぽ出店数の拡大など、お客様に満足していただける受け入れ体制の整備に向けて取り組むこととしております。私自身この10月、短期間で複数のビッグイベントを盛会のうちに終えることができたと考えて

おります。これはひとえに、実行委員会メンバーの皆様の高い意識と行動力のおかげであると感謝しております。また、きりたんぼまつりは多くのボランティアの御協力があって開催できるものであり、このイベントを通じて実行委員会やボランティアの方々を初めとする市民一人一人の意識の高さが大館の持つ力、底力であると強く感じたところでもあります。地域の発展のために御尽力いただいている実行委員会はあすの大館を担う人たちで成り立っており、市としては今後も協力を惜しむことなくオール大館でお客様を迎えるための体制づくりに取り組んでまいりますので、御理解をお願いいたします。

3点目、**TPPについて。現時点での市長の考え方は**についてであります。TPP協定は、日米を中心にアジア太平洋地域の12カ国から成る、世界のGDPの約4割、貿易の3割を占める経済連携協定ですが、次期アメリカ大統領がTPP協定からの離脱を明言したため、その発効は事実上困難な状況になっていると認識しております。しかしながら「TPP合意は国を開くことである」との認識は基本的に変わるものではなく、TPPいかにかわらず我が国の人口が減少していく中で市場を海外に求めていくことは、むしろ必然であると考えております。農業情勢はこの20年で大きく変化し、今、世界各地で日本の食文化が高く評価されてきております。私自身、タイ王国や台湾でのトップセールスを通して秋田牛を初め、比内地鶏・きりたんぼなど、ひいては秋田の食文化に対する関心は非常に高いものがあると実感しており、世界を見据えた農業展開への道は開けているものと確信しているところでもあります。また、本市の農業に関しては、TPPの発効にかかわらず、解決しなければならない抱えている課題は本質的に変わるものではないと認識しているところでもあります。引き続き、国・県と連携しながら農業分野にこそ英知を結集させ、攻めと守りの両面から意欲ある農業者が安心して農業経営に取り組めるよう必要な施策を展開し、支援してまいりたいと考えております。

以上であります。よろしく御理解を賜りますようお願い申し上げます。(降壇)

○20番(佐藤健一君) 議長、20番。

○議長(仲沢誠也君) 20番。

○20番(佐藤健一君) 一問一答でお願いします。1点目のタイ王国・台湾へのトップセールスについてですが、トップセールスにはどんどん行っていいと思います。しかし、観光施設の整備などを含めた受け入れ体制をしっかりと整えなければならないと思いますが、いかがでしょうか。また、インバウンドについてですが、議会報告会の中で「一般人だけではなく修学旅行の誘致にも」という声がありました。聞くところによりますと、国で台湾の台北市・台中市・高雄市において学校の先生方を中心に説明会を開催しており、それに大館市も参加しているということですが誘致の見込みはあるのでしょうか。以上、2点について答弁をお願いします。

○市長(福原淳嗣君) 議長。

○議長(仲沢誠也君) 市長。

○市長(福原淳嗣君) ただいまの佐藤議員の再質問にお答えいたします。受け入れ体制につ

いて、修学旅行生の誘致に関する2点についてであります。受け入れ体制についてはそのとおりだと思います。実はそれが佐藤議員の御質問の修学旅行生の誘致にもかかわってまいりますが、受け入れ体制をつくるのは当然です。しかし、受け入れ体制をつくる時に大館市だけではかなわないという実情があります。だからこそ、秋田犬ツーリズムとも連携し、小坂町・大館市・北秋田市・上小阿仁村という広い面で捉えていくことが必要だと考えております。また、修学旅行生のことに関しては台湾に行って気づいたことがあります。日本の修学旅行は学校が決めますが、台湾の修学旅行は先生が決めるということです。先生の裁量権が非常に強いとなると、その先生に対してどのようなアプローチをするのが大切だと思います。私は昨年、大館市長として行きましたが、メイヤーというだけで先方の旅行会社や学校の校長先生が来て「大館の市長がわざわざお見えになった」と言われました。これが産業部長だと力不足ということではないのですが、トップが行くことで向こうもトップが動くという効果がありますので、その面はきちんと考えていきたいと思っております。そして、トップセールスではありますが、私は大館市のトップとして単独で動くことは絶対にしません。周辺の首長や秋田県知事と必ず事前に話し合いをし、より広いメンバーのチーム秋田の中で大館は何ができるのかを考えていくことが受け入れ体制、ひいてはインバウンド体制にもつながっていきます。私はあえてことし、はちくんキャップをかぶり、笑われるキャラクターを演じました。秋田の魅力を発信するときに「知事だ」「市長だ」と言ってもみんなそれはそれまでです。ところが、その帽子をかぶって笑いをとった瞬間に「あそこはおもしろい」という話になります。そのようなことと大館だけではなく周辺の自治体と組んでいくことで、受け入れ体制のことに関しても周辺の自治体ときちんと相談して整えていく、インバウンドだけではなく修学旅行生に対してもチーム秋田でアプローチしていく、それらの流れを加速させていくことを通じて、来るお客様をふやす市政運営に心がけたいと考えておりますので、御理解を賜りますようお願い申し上げます。

○20番（佐藤健一君） 議長、20番。

○議長（仲沢誠也君） 20番。

○20番（佐藤健一君） 3点目のTPPについてです。市長の言うことは確かに正しいと思っておりますけれども、TPPを進めることによって中山間地が多い大館の農業をこれからどう進めるのかがすごく課題になると思っております。集約化や規模拡大を目指しても中山間地は規模拡大ができません。今、国でも中山間地について見直すということで新聞に出ておりますけれども、大館市の農業、特に中山間地をどうしていくのか、市長の考えをお伺いいたします。

○市長（福原淳嗣君） 議長。

○議長（仲沢誠也君） 市長。

○市長（福原淳嗣君） ただいまの佐藤議員の再質問にお答えいたします。TPPに絡めて中山間地の農業ということでありまして、次期アメリカ大統領がTPPを批准しないという発言

をされましたが、二国間協定であるEPA・FTAは続けていくということはどういうことなのか。つまりTPPは、私たちのような農業と林業を基軸とする地方都市においては、まさしく農業や林業の側面が取り上げられますが、実はTPPが発効され一番影響があるのは農業分野ではなく、知的財産分野・医療分野・介護分野を含めたサービス業全体のほうが大きいわけです。今回のTPPでなくとも二国間協定を進めていくことに関しては、特定の農業分野であれば条件交渉の形が見やすくなってくると考えています。世界全体の人口はふえていく状況において農産物を生産するハードとしての農地・畑地は少なくなっていく中、秋田がなせること、大館ができることはあると考えています。主食用米だけではなく飼料用米・枝豆、もしかするとその次もあります。今は具体的にお話しできませんが一関産業部長とともに勉強会を立ち上げまして、今年度は無理ですが次年度以降に、中山間地はこのような形で新しい農業の成長分野となれる、このような物をつくれるのだということを議会の皆様方にお話しできるようにしていきたいと思っています。先ほどお答えしたとおり、農業分野に英知を結集させることを私は市長として決して諦めません。そのことに関しましても御理解いただきたいと思います。以上であります。よろしくお願い申し上げます。

---

○議長（仲沢誠也君） 次に、吉原正君の一般質問を許します。

〔19番 吉原 正君 登壇〕（拍手）

○19番（吉原 正君） いぶき21の吉原正です。ことしもあと一月となりました。ことし、大館の中で何かと話題になったものの一つに秋田犬があります。先日も「モフモフさせてあげる」というミュージックPR動画の再生回数が100万回を突破し、きょうの朝の段階では118万5,219回のアクセス数でありました。予想外の反響を得ているとの話があります。秋田犬の飼育などを担当する地域おこし協力隊も赴任しました。県との協働によるハチ公の駅の計画もあります。大館と秋田犬のこうした関係は、大館の人たちにとっては常識でありますけれども、県外に行くとこれをきちんと知っている方は非常に少ないと思います。一昨日、岩手県で若い人に「大館のことをわかりますか」と問いかけたところ、「田沢湖のあたりですね」と返答がありました。「そこは角館ですよ」と話しましたが、大館と秋田犬の関係を知っている人は私たちが思っている以上に少ないと思っています。そこで、インターネット上で「秋田犬」を検索してみました。大館と秋田犬「秋田犬を使つての大館の情報発信」といったものがグーグルの検索では上位の中に余りなく、3～5ページ開いていかないとなかなか出てきません。これでは、情報発信としては少し弱いのではないかと感じました。検索の上位に来るためにはさまざまな方法があるようですので、「秋田犬」と検索すれば一発で「大館と秋田犬」と出てくるようなことを検知しながらそれがさまざまな情報の中でわかるようなことも、ぜひ検討していただければと思います。それでは質問に入ります。

最初の質問は、**最近の農業情勢と市農政の課題**についてであります。農業をめぐる問題は

いろいろとありますが、政府の規制改革推進会議農業ワーキング・グループがまとめた急進的な農協改革の提言が農協や農家から大きな反発を受けています。内容は、皆さんは既に御承知かと思いますが、全農改革は1年以内に行い、農家からの農産物の委託販売を廃止し全量買い取り販売に転換する。JAの信用事業は3年をめどに半減させ、代理店化を進めるなどとしております。農業資材の農家への販売については、全農は1年以内に新しい組織に転換、人員や関連部門を生産資材メーカーに譲渡や売却をすることとしています。この提言に対して「究極の目的は協同組合の否定であり、組織を弱体化し総合JAを解体。そして、農業・農村市場への大企業の参入。国内外のグローバル企業の投資拡大・利益拡大にある」と指摘している農業関係の識者の方は非常に多いのです。また、こうした暴走的提言に対しJAグループは猛烈に反発し、野党のみならず与党からも批判が相次ぎ、JAグループの主張をある程度取り入れた形で決着しました。農協のあり方や事業に対して農業者の中からも不満や批判があることは事実であります。しかし、大館のみならずそれぞれの地域にとっては農協なくして地域農業の展望が開けないほど、地域に根差した役割は大きいと私は思っております。①**一連の農協改革提言に対して、市長はどのような見解をお持ちか**お聞きいたします。

②**減反政策の見直しに関して**伺います。国は、来年度の米の生産数量目標の配分を最後に配分を行わないとしております。「生産者や集荷業者が需要に応じてみずから生産量を決められることで、経営の自由度の拡大を目指す」という農水省の説明であります。国の「減反廃止」という言葉がひとり歩きして、間違った受けとめ方をされていることも問題であります。なくなるのは国の配分とそれに伴う米の直接支払交付金で、従来は10アール当たり1万5,000円でありましたが今は7,500円であります。減反廃止ではなく、需要に見合った生産量はこれまでと同様に必要であり、生産調整そのものを廃止するものではないことを周知することが大事であります。先般、秋田県が説明した方針によると「県全体の生産量の目安は示すが、市町村ごとの目安は設定しない。市場動向を見きわめて過剰生産を防ぎ、販売拡大を進める役割を各市町村とJA等の出荷業者に委ねる」ということであります。ここ2年の間に、全国段階で初めて生産調整が達成され、米の価格が持ち直した経緯がありますが、「過剰生産による価格の下落をまた招くのでは」という生産者の声は非常に多いのです。市町村段階での対策・対応をどうするのでしょうか。平成30年はすぐそこに来ております。このことにしっかりと向き合い、農家の不安を解消するような方策を、ぜひつくっていただきたいと思っております。現時点でのお考えをお聞かせください。

③**農業の担い手対策について**伺います。農業者の平均年齢は60代後半であります。しかも、後継者はいません。このことを前提に大館の農業を考えると、複合経営や新たな作目の導入などに取り組める農家は少ないことを理解せざるを得ません。大館の園芸作物の販売額が伸び悩んでいるのも、若い世代の新規作付や拡大がある一方で、高齢により栽培をやめる農家が多い状況が大きな要因であると思っております。こうしたことから大館の農地を守り、産業としての農

業を守り立てていくために、担い手対策は喫緊の課題と私は考えます。市内には、若い世代を中心に大規模経営や法人格を持った認定農業者などがふえてきておりますが、まだ足りません。個人主体の大規模経営と、それに集約されない地域の集落営農的な経営体の双方が補完し合いながらそれぞれの地域の農地を守り、農業を発展させていけるよう関係団体と一緒に担い手対策にぜひ取り組んでいただきたい。これはまさに再生協議会の名称にふさわしい活動であると思います。市長のお考えを伺います。

④**比内地鶏糞処理施設の処理能力の改善について**伺います。比内地鶏ブランドの安全・安心と環境に配慮した生産を発信するために施設が建設されたことは、関係者全てが喜んでいるところであります。26万羽の生産に対応した鶏ふん処理施設であります。残念なことにまだその生産羽数に達していない現在、計画どおりの稼働ができず、生産者はみずからストックせざるを得ない状況にあります。比内地鶏は、全国に知れ渡っているトップブランドであります。きりたんぼを発信するにも比内地鶏は欠かせません。鶏ふんの野積みで不衛生と思われ評判が落ちることがないように、施設の処理能力の向上・改善に向けての対処を強く要請したいと思います。

⑤**福原農政への期待について**。若い農業者に「福原市政の農業についてどう思いますか」と尋ねますと、間を置いて「よくわからない。期待はしているけど……」という感じの答えが多いのです。観光・移住などを中心に市長の発信力と露出度は高く、行動力も市民には大きく評価されていると思います。若い農業者の期待に応えるような大館の農業の進む方向を発信し、その実現に向かって頑張る姿を私も期待しております。また、これからの大館市の農業をともに支えていくということで、ぜひ、市長と若い農業者たちが農業について語り合い、継続的なつながりが持てる場をつくっていただきたいと要望しておきます。

次に、「安心して暮らせるまち大館」を目指した**高齢者福祉について**。①**2025年問題についての認識と対応について**伺います。2025年には、団塊の世代が75歳を超えて後期高齢者となり、国民の3人に1人が65歳以上、5人に1人が75歳以上という今までに経験したことのない「超超高齢社会」を迎えると言われております。65歳以上の方1人を20歳から64歳の方1.8人で支える構造となります。医療・福祉を中心として、人材確保・施設不足などにどのように対処するのでしょうか。あと9年です。市長の考えをお尋ねいたします。

②**地域包括ケアシステムについて**であります。実は、地域包括ケアシステムは2025年問題の対応のためにつくられた政策であります。施設介護が待機者増で要望に応えられない状況であるため、重度な要介護状態になっても住みなれた地域で自分らしい暮らしを続けることができるようなシステムをつくることが目標であります。そのためには医療・介護・予防・住まい・日常生活支援などが包括的に提供されなければなりません。おおむね30分以内に必要なサービスが提供される生活圈、具体的には中学校区単位を想定しております。当市においては、どのような取り組みが行われ、進展度はどの程度でしょうか。また、2025年ころには、市内各地で

システムが機能するようになるのでしょうか。お尋ねいたします。

③**総合事業について**伺います。福祉に詳しくない人にとっては耳なれない言葉であります。介護保険制度の見直しにより、要支援1・2の方を対象とした介護予防・日常生活支援総合事業が正式名称です。内容は、市町村が中心となり、福祉事業者中心のサービスの一部を地域住民・NPO・ボランティア等の多様な主体が担い、地域の支え合い体制づくりを進めていくものであります。平成27年の施行であります。29年3月末までの猶予期間があります。本市の場合、この趣旨に沿う形での実施がどの程度進んでいるのでしょうか。取り組み状況をお知らせ願います。

④**社会活動参加と介護予防について**であります。病気にかかることや介護が必要な状態には、いずれ誰もなりたくないですし、そのためには予防的な生活習慣が必要との思いでしょう。しかし、いざ実践となると難しいものであります。高齢者17万人余りを対象としたある調査では、趣味関係のグループへの参加率が高い地域ほど鬱病になりにくい。スポーツ組織への参加率が高い地域ほど高齢者の転倒などの事故が少ない。ボランティアなど地域組織への参加割合が高い地域ほど認知症のリスクが低い等の結果を公表しております。国保や介護保険の費用増大を抑制するヒントとして、関係部署が連携して市民の社会活動への参加を盛り上げていくのも一つの方法ではないかと考えますが、市長の所見を伺います。

次に、**移住促進について**伺います。ことし4月から移住交流課が新設されました。交流人口の拡大・移住促進に対する市長の思いのあらわれと受けとめます。地方創生絡みで移住対策は全国の市町村がまさに百花繚乱の様相であります。ふるさと回帰支援センターのホームページを見てみると、各地のキャッチコピーが非常におもしろい。「楽園信州」は長野県、「秘境で暮らす楽園ツアー」は徳島県、「イーハトー部に入ろう」は岩手県、「後継者バンク・田舎で起業」は静岡県であります。その中で「全力発展中」のロゴマークが目にとまりクリックすると「ワンランク上の豊後高田市」という大分県豊後高田市の移住者応援プロジェクトのサイトに飛びました。動画を駆使して移住した人たちのそれぞれの分野での活動などがわかりやすく紹介されており、実によくできておりました。全国移住ナビのローカルホームページ部門では、3カ月で約5万3,000件のアクセス数でぶっちぎりのトップであり、総務大臣賞も受賞しております。当市もホームページの一番上段に移住・交流サイトを載せアピールしております。内容は豊後高田市に及びませんが、それなりにできていると思います。さて、本市の移住対策として地方創生等の交付金を使つての事業が展開されております。シングルペアレント移住促進事業・大人のインターシップ事業等であります。まだ事業を展開中であり成果を求めるものではありませんが、①**手応えのほど**はいかがでしょうか。市長の思いも含めて答弁願います。

②**CCRCについて**伺います。大館版CCRCの推進ということで、地元の新聞では2回ほど記事に取り上げておりました。小・中学校の高い学力、有効求人倍率の高水準、ペットに優しい町などを中心にし、高齢者だけではなく子育て世代を含めた幅広い年齢層の移住を促し

たいとしています。個人単位の移住に比べ多人数の移住になりますけれども、幅広い年齢層であるがゆえに求めるサービスも多様になると思います。市が事業主体になるのでしょうか。居住の形態はどのような形を想定しているのでしょうか。また、移住希望者の確保はどのような方法を考えているのでしょうか。私は、基本的にはCCRCに賛同しますが、大館市民の暮らしが魅力的であることが外から人を呼び込む大きな源になると思いますので、市民生活の向上にぜひ努めていただきたい。CCRCについてはこれから研究・検討するということですので、現段階で答えられる範囲で状況をお知らせ願います。

最後に、**学校統合後の校舎利活用について**伺います。この件は、今までも何度か質問しておりますが、今回は雪沢小学校・大葛小学校の名前を挙げております。きょうは田代地域の方々がお見えになっておりますが、実は岩野目小学校もあります。これらの施設は地域の方々が自主的に草刈りや清掃などをしてくれるおかげで、それほど寂れない状態を保っており、いずれも旧市町の教育委員会が自信と誇りを持って建てた特色ある校舎であります。これほど早く閉校する 때가来ると当時は予測していなかったと思います。先日行われた議会報告会では、雪沢小学校について「あのような立派な校舎がなぜ利用されないのか」という市民の声がありました。議会に報告がないということは、取り組みが進展していないことでしょうか、働きかけや打診等はなかったのでしょうか。空き公共施設等利活用促進条例は全国的にも注目されている大館の条例ですが、待っているだけではなかなか難しいのではないのでしょうか。プロジェクトを立ち上げて取り組んでいると聞きますが、**①今までの取り組み状況**はどうなっているのか説明をお願いいたします。

全国では、廃校舎の約70%は活用されているとの文部科学省の調査があります。大葛小学校は、体育館は地元で、天文台は公民館で活用しているので、活用の範疇に入っているのかもしれませんが、しかし、校舎本体の活用が求められております。平成24年の閉校から5年目になるうとしております。5年経過のジंकスというものがあまして、地元の熱意がだんだんと冷めてきて、利活用の担当者も人事異動などで経緯を余り知らない人たちになった結果、利活用ができないまま固定化されてしまうことですが、5年が一つの境目になるのではないかという教訓です。いま一度、**②利活用の実現に向け、本腰を入れて地元との会合を持ちながらそれぞれの校舎・地域にふさわしい方向に向けて、エンジンを再スタートされることを強く望みたい**と思います。展望が開けるような市長の答弁を期待いたします。

以上で、私の質問を終わります。ありがとうございました。(拍手)(降壇)

**〔市長 福原淳嗣君 登壇〕**

○市長(福原淳嗣君) ただいまの吉原議員の御質問にお答えいたします。

1点目、**最近の農業情勢と市農政課題**。①「**農協つぶし**」とも言える**規制改革推進会議の提言について、市長の見解**はについてであります。初めに、私も吉原議員と同様、農協があればこそ今の我が大館の農業の形があると考えております。今後とも農協と連携して大館の農



政を支えていくことに確約を申し上げたいと思います。この農協改革については、政府が決定した農林水産業・地域の活力創造プランが基本路線となっており、5年間の集中推進期間における自己改革の実行を要請したものと認識しております。農協改革は、地域の農業者の声を踏まえながら議論をしっかりと行い、真に地域の農業者のためになる改革を進めるべきであると考えております。私も吉原議員と同様、この改革の形をメディアがあたかも一つの形しかないように取り上げていることは非常に問題があると考えております。例えば、北海道における農協の改革、東北における農協の改革、九州における農協の改革は違って当然だと思います。農協の改革を画一的に一つのモデルをつくり上げるものにはいけません。その地域にふさわしい自己改革のプランを、今後とも地域農業に携わる方々の声を聞きながら進めていただきたいと考えているところであります。

**②平成30年からの国の生産調整、数量目標の廃止による影響と対策について**であります。

このことに関しても冒頭に1点だけ申し上げたいことがございます。先般、東北農政局と県内の首長の意見交換会が開催されました。その折、確かに国は生産数量や数量目標は廃止しますが、具体的な米の需給データや特定の地域から出てくる必要な情報に関しては責任を持って提供する仕組みを残すとの見解をいただきました。そのことを踏まえまして、平成30年産以降の対応につきましては「行政による生産数量目標の配分を廃止し、農業者みずからの経営判断に基づき、米の生産量を定める仕組みとする」という国の方針に基づいて、県農業再生協議会の需要に応じた米生産に関する専門部会において検討しているところであります。生産数量目標の配分にかわり、秋田県全体の生産の目安を提示する方針としております。市では、県の生産の目安に基づいて農家個々の目安を算定して通知する方向で検討している状況であります。JAや集荷業者と連携し、過剰生産や米価下落につながらないように、また、農家において混乱が生じないように、正確な情報をしっかりと伝えていきたいと考えております。さらに、米の直接支払交付金が廃止されるため、国の水田活用の直接支払交付金や市の重点戦略作物等作付支援事業の活用により、主食用米以外の作物への作付を誘導し、農家所得の向上を支援してまいります。なお、米の直接支払交付金が廃止されるかわりのメニューを、予算を含めて農林水産省がしっかりと守っていくということについて、先般の東北農政局との意見交換会で確認させていただいたところであります。

**③市農業にとって、担い手対策は喫緊の課題**についてです。吉原議員御指摘のとおり、持続可能な農業・農村を目指す上で、次世代の担い手の育成は非常に重要な課題であると認識しております。平場の比較的条件のよいところは農業法人を中心に大規模経営体が増加しておりますが、殊に中山間地域においては生産条件が不利なことから規模拡大が非常に難しく、担い手の確保も厳しい状況となっております。そのため、認定農業者の皆様、集落営農組織・農業法人、青年農業就農者の皆様、女性農業者の皆様、さらには他産業からの農業参入企業など多様な担い手を確保し、地域農業を振興していく必要があると考えております。市では、新規就

農者の掘り起こしや就農支援を行っているほか、市内全域16地区で策定した人・農地プランについて、あくまでも地域の実情に沿った形でプランを見直しながらその地域における中心経営体となる担い手の育成・強化を図ってまいります。特に今後、大区画圃場整備事業を計画している地区については、地域の営農構想を踏まえた農業法人の設立、農地集積を重点的に推進し担い手の確保に努めてまいります。

④**比内地鶏糞処理施設の処理能力改善について**であります。この施設は、吉原議員御紹介のとおり、平成25年度の稼働から4年目を迎えますが、比較的新しい施設であるにもかかわらず設備の故障などにより運転を停止している期間もあり、比内地鶏生産者の皆様に御迷惑をおかけしておりますことに対しまして、おわび申し上げます。施設や設備の増設は困難な状況ではありますが、現施設の処理能力が100%発揮できるよう、生産者の理解と協力を得ながらその改善に努めてまいりますので、御理解をお願い申し上げます。

⑤**福原農政の農業者への発信と実行に、若い農業者は期待している**についてであります。日本の食文化が世界各地で高く評価されてきている中で、私自身、タイ王国や台湾でトップセールスを行い、秋田の食文化の底力を実感しているところであります。今後、東京オリンピック・パラリンピックまでに日本の農業、食文化の環境は激変すると感じております。このような中で、マーケットを意識できる担い手こそが大館に必要な人材であると感じているところであります。私が掲げる政策の根本にある、来る人口をふやすその先にあるものは、我が大館にお越しいただいて食文化を堪能していただくことにあります。ここにおいては「いいものをつくっているからいい」というプロダクトアウトの発想ではなく、大館の食文化を楽しみたいとするお客様の目線で物事を考え、農業を捉えていくマーケットインの考え方だと考えております。本市の基幹産業である農業が魅力ある成長産業分野となるよう、特に若い農業者に対し積極的な情報発信を今後も行っていくとともに、本市の食文化についても自信を持って広く発信してまいりたいと考えております。

2点目、「安心して暮らせるまち大館」の**高齢者福祉の前進を**。①**2025年問題についての認識と対応について**であります。団塊の世代が75歳以上となる2025年には、国民の3人に1人が65歳以上、5人に1人が75歳以上の超高齢社会になると言われております。また、国立社会保障・人口問題研究所による推計においては、2025年の本市の人口は約6万5,000人で、そのうち65歳以上は39.8%、要介護の割合が高くなる75歳以上は24%になると見込まれております。市では、総合計画に掲げた「高齢者が生きがいと尊厳を持ち、安心して暮らすまち」の実現を目指し、医療や介護施設、地域コミュニティーなど、本市が有する社会資源を有効に活用し、市の実情に即した地域包括ケアシステムの構築を進めてまいります。

②**地域包括ケアシステムの構築に向けた取り組みの進展度**はについてであります。地域包括ケアシステムは、要介護状態となっても住みなれた地域で自分らしい暮らしを人生の最後まで続けることができるよう、医療・介護・予防・住まい・生活支援が包括的に確保され、一体

となって高齢者を支える仕組みであります。市では現在、医療と介護サービスを切れ目なく提供できるよう、関係機関による在宅医療・介護連携推進協議会を設置して協議を重ねているところであり、特に総合病院においては地域包括ケア病棟の設置や認知症疾患医療センターの開設など、医療と介護の連携が進められております。また、包括ケアシステムで求められる認知症施策の推進や地域ケア会議の推進、生活支援サービスの充実・強化を図るため、認知症の方やその家族に早期にかかわる認知症初期集中支援チームや、地域において生活支援・介護予防サービスの提供体制の構築に向けたコーディネーター機能の役割を担っていただき、生活支援コーディネーターの配置の実現に向けて取り組んでまいります。今後は市内に6カ所ある地域包括支援センターの機能を強化するとともに、ボランティアの掘り起こしや地域課題の把握と解決の積み重ねにより、大館らしい地域包括ケアシステムの構築につなげてまいりたいと考えております。

③**介護保険見直しによる「総合事業」の開始が目前となる中での市の対応状況について**であります。来年度から実施する介護予防・日常生活支援総合事業では、要支援者へのサービスである訪問介護と通所介護について、国が実施する介護予防給付から市が実施する介護予防日常生活支援サービス事業に移行することになります。本市では、利用者に戸惑いを与えないためにも、現在のサービス提供事業者の協力を得ながらこれまでと同様のサービスを提供する予定としております。また、介護予防日常生活支援サービス事業は、緩和した基準によるサービスの提供や、住民主体による多様なサービスの提供も可能なことからボランティアによる掃除や買い物などの生活支援サービスや、住民主体によるミニデイサービス等を提供する環境の整備が必要だと考えております。今後、地域での取り組みを推進するためにも、ボランティアなどの育成を図りながら地域住民によるサービス提供につなげてまいります。

④**社会活動参加と介護予防**についてであります。社会活動へ参加することで介護の予防が図られていくということに関しては、私も全く同感であります。市では、介護予防事業として高齢者の社会的孤立感を解消すること、要介護状態への進行の予防を図ることなどを目的として、一般高齢者を対象とした生きがい健康づくり支援事業や、地域や団体の自主的な介護予防活動を支援するための地域介護予防活動支援事業を展開しております。こうした取り組みは、高齢者の皆様の生きがいや健康維持、認知症の予防の面などでも効果が期待でき、介護保険料の抑制にもつながっていくことから今後もこれらの事業の充実を図ってまいります。また、高齢者が寄り合うサロンなど地域で自主的に実施されている活動についても、講師派遣などの支援を行ってまいりたいと考えております。

3点目、**移住促進**について。①**移住交流課による各種施策の手応えのほど**はについてであります。本年4月に新設した移住交流課は移住促進に特化した部門であり、喫緊の課題である人口減少対策のための重要な役割を担っております。移住に当たっては、生活全般が大きく変わることからまずは大館に興味を持ってもらい、来ていただいて好きになってもらう。そして、

何度も足を運んでいただいた上で、最終的に本市への移住を決断していただくという段階を踏んでいくことが移住につながっていくものと考えております。市では、大館に興味を持ってもらうため、4月以降、首都圏での移住相談会や移住フェアに6回参加し、155人に大館への移住案内や個別相談を行ったほか、本市への移住体験ツアーをこれまで3回開催し延べ9人が参加されております。来月には、全国多数の自治体による合同移住相談会に参加するほか、本市単独の相談会も開催する予定としており、さらに今後、移住体験ツアーを2回、就労体験ツアーを1回企画しているところであります。なお、今年度のこれまでの移住者数は、市で採用した協力隊員も含め15人となっております。これは昨年度の7人を8人上回っております。一方、移住された方への定住化支援の取り組みとしては、移住者の不安や悩みを軽減するための交流会「大館びとの会」を参加者の生活スタイルに合わせて日中と夜間にそれぞれ1回ずつ月2回開催しており、6月から延べ60人の参加をいただいております。これまで各種事業を展開してきた中で、関係性人口がふえてきていると実感しているところであります。今後もこれまでの施策を停滞させることなく実施し、移住者の増加につなげていきたいと考えております。

②**大館版CCRCによる移住について**であります。全国的に人口が急速に減少する中、地方では生産年齢人口の流出、労働力不足等により地域活力の低下が課題になっていることは明らかであります。一方、首都圏等では人口の集中により、今後高齢者が一気に急増し医療ケアなどを首都圏で賄うことが困難となり、さまざまな面で影響が生じてくと予測されております。国では、こうした現状を踏まえまして日本版CCRC構想を掲げ、首都圏の高齢者が地方に移り住み、地域住民や多世代と交流しながら健康で活動的な生活を送り、介護が必要となった場合には継続的なケアを受けられるような多世代が共存する地域づくりを目指すとしております。市が策定する大館版CCRC整備構想については、市の強みである小・中学生の高い学力、シングルペアレントなどの地元企業への就労支援や子育て支援など、大館ならではのものを提供しながら官民協働で首都圏等の子育て世代から高齢者まで特定の年代にこだわることなく、あらゆる人々を移住ターゲットにして「移り住みたくなるようなまち」「第二のふるさとになるようなまち」を目指して取り組んでまいります。整備構想の策定に当たっては、庁内検討委員会を設置し先月30日に初会合を開催したところであります。今後、作業部会において現状の把握や課題の洗い出しなどを行い、より戦略的かつ効果的な構想をつくり上げていきたいと考えております。

4点目、**統合後の校舎利活用に本腰で取り組みを。**①**特色ある雪沢・大葛小学校等の利活用が進展していない。今までの取り組み状況は、**②**全国的な例では、廃校後5年までに進展しないと難しくなると言われる。本腰を入れて地元と粘り強く会合を重ね、ふさわしい方向を見出してほしい**についてであります。この2点につきましては関連がありますので一括してお答え申し上げます。平成17年に新大館市が誕生して以来、廃校となった小・中学校8校のうち旧山田小学校が生ハム工場として、旧三岳小学校が山芋の皮むき作業所として利用され

るなど、5校については雇用の確保や地域住民の拠点施設として有効に活用されております。市では、廃校後の校舎の利活用に当たっては、まずは地元利用を最優先としておりますが、利用の希望がなかった場合には売却や貸し出しによる民間活用を進めるとともに、ほかの用途への利用も検討しているところであります。また、3校の空き校舎のうち旧大葛小学校については、大葛の将来を考える会が体育館とグラウンドを各種イベントの開催に活用しております。去る11月8日には、国が地方への「ヒト・情報」の流れを創出するために設けた事業であります「お試しサテライトオフィス」モデル事業に応募していた、星と緑と温泉の360°パノラマ・サテライトオフィス体験事業が採択されております。今年度はホームページやパンフレットの作成等を行う準備期間としており、来年度以降、本市にオフィスの設置を希望する企業に空き校舎などを視察していただき、要望などを踏まえながら実際にオフィスとして活用していただけるよう取り組んでまいりたいと考えております。

以上であります。よろしく御理解を賜りますようお願い申し上げます。(降壇)

○19番(吉原 正君) 議長、19番。

○議長(仲沢誠也君) 19番。

○19番(吉原 正君) 1点目の最近の農業情勢と市農政課題について、生産調整に関しては東北農政局で具体的なデータを出しながら決して国が関与しないわけではないということではありますが、つくる自由・売る自由という言葉が出されております。今までの例から見ると、米の価格が一度下落すると回復にはものすごい時間を必要としています。今までは全国段階で数量を決めて各県に配分され各県が市町村に配分し、全国津々浦々で過剰生産の抑制に取り組んできました。それを今度は各県が一体どう対応し、各市町村がどう対応するのでしょうか。大規模経営の方々にとっては売るチャンスだということで、独自に販売先を確保しているところは従来の数字にこだわらず、自分たちで作付を拡大していく動きも多分出てくるのではないかと思います。要は、大館市や秋田県が昨年の状況に応じた面積をきちんと生産調整しても全国段階で達成されなければ、米の価格そのものが崩れてしまうということを私は一番心配しています。生産者からは「国がきちんと責任を持ってやってほしい」という声も非常に多く聞かれますが、各都道府県が独自に取り組むと同時に調整し合いながら日本全体で消費に見合う生産量にしていかなければ、なかなか大変ではないのかという私の思いです。一市町村が全国規模をコントロールすることはできませんので、そのような心配はずっと残りますが、とりあえずは市の段階できちんと対応していくことに尽きると思います。これについて答弁は要りませんが、市長が先ほどおっしゃったような方向で万全を期しながら農家の不安解消とともに、ぜひ生産調整がきちんと機能するような形に持って行ってほしいと思います。

2点目の「安心して暮らせるまち大館」について、地域包括ケアシステムや総合事業についていろいろと御答弁をいただきました。いずれもそのような方向に向かえばこの項目のテーマにした「安心して暮らせるまち」になっていくと思いますし、高齢者のみならず市民

が安心して暮らせる町をつくるのが政治の究極の大目標であると私は考えます。特に高齢者が多くなるこれからの高齢社会において、現役世代のときは一生懸命頑張って、それが終わって安心して暮らそうと思っても、実際のところはいろいろと不安が取り巻いてなかなか厳しいという状況がたくさんあると思います。そのような意味では、地域包括ケアや総合事業に地域住民たちが参画しながら自分たちで地域をつくり上げていくという姿勢がすごく大事だと思います。総合事業では、住民主体のサービスを提供する環境の整備をこれから進めていくということですが、実際自主的にサービスの提供に取り組みたいという地域の方々が出てきて実現の可能性がある場合に、予算がないので対応できないといったことがないよう、ぜひ来年度において予算を含めてそれに対応できる体制をとっていただきたい。これは御答弁願いたいと思います。

3点目の移住促進について。移住促進は全国どこでも取り組んでいますし、地方創生の中では移住により人口減少をできるだけ少なくする、あるいは交流人口の拡大によってそれをカバーしていく対策をとっています。移住交流課はできたばかりですし、CCRCも県内で取り組んでいるところはありますけれども、実際のところまだ一歩踏み出したという状況だと思います。大館もこれからだと思いますが、移住やCCRCを進めていくとともに、移住してきた人たちに「この地域は本当に住みやすいところだ」と思ってもらえるためには、まずは現在暮らしている市民の方々がそのような思いを持ち、それを向上させることができる環境が必要でありますので、そのための対策をぜひとっていただきたいと思います。

4点目の学校統合後の校舎利活用について、口で言うのは簡単ですが、実際のところは確かに難しいと思います。しかし、学校があった当時の地域の方々の思いをもう一度想定し、ぜひ粘り強く地域の方々と会合を進めながらその方々にふさわしい方向性を見出してほしいと思います。実際のところ、市の担当者がかわっていくと具現化がなかなか難しいように感じますが、そのようなことがないよう、できるだけ早く結果を出すという方向で頑張ってください。また、大葛については、小畑前市長のときから何度か提案があり「実は今このようなところと交渉しています」「このようなところからオファーがあります」といった話を聞いておりましたが、その後説明がないまま立ち消えになっている経緯がありますので、最新の状況で何か情報がありましたらあわせて御答弁願います。

○市長（福原淳嗣君） 議長。

○議長（仲沢誠也君） 市長。

○市長（福原淳嗣君） ただいまの吉原議員の再質問にお答えいたします。答弁は2点だけということでありましたが、実は私の中では政策上全てつなげて考えています。まず、農政に関しまして、私の農業分野に係る認識ということでこれだけは御理解いただきたいのですが、1次産業としての農業の市場が8兆円、外食産業としてのサービス業の市場が90兆円です。この12倍の差は何なのか。このことに対する問題意識がなければ、ただつくることだけを考えては

いけないと思います。吉原議員がいみじくもおっしゃった、流通にどのように大館の強みを生かしてかかわっていくのか、これが地元の農業者の皆様の所得向上につながっていくと考えています。そして、そのような場所を提供している中山間地の中にある学びやのありように関しましては、総務省のサテライトオフィス事業に採択されました。実は、本市にオフィスを移したいと考えている企業を探すのは市ではなく国です。そのような企業と話をする中で、例えば五城目町にある先進事例を勉強させていただき、外からの目線で廃校になった学びやをどうやって活用してもらえるのかということに関して、ノウハウを蓄積させていただきたいと考えております。また、「安心して暮らせるまち大館」に関しまして当局側のお話として申し上げますが、実はこの答弁書の作成に当たって副市長・教育長以下みんなで話し合ったとき、今回初めて総合病院部局と長寿課と一緒に市長答弁を考える作業をいたしました。これが大館らしい地域包括ケアシステムであろうし、その先にあるのが大館らしいCCRCだと考えております。吉原議員御指摘のとおり、住んでいる私たち自身が大館の暮らしのよさを発信できなければ移り住んでは来ないと思います。その点はきちんとぶれることなく方向性を一つに定めながら進めていきたいと考えておりますので、御理解を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

○19番（吉原 正君） 議長、19番。

○議長（仲沢誠也君） 19番。

○19番（吉原 正君） 市長は私が答弁を求めない点までおっしゃってくれました。どこの地方へ行ってもよく耳にするのが「うちには何もない」という言葉です。きのう、テレビ番組「ザ・インタビュー」に千葉県房総半島のいすみ鉄道の社長が出演しておりました。この鉄道は、国鉄が路線を廃止するということで地域が請け負ったローカル線ですが、赤字で大変だというのに民間人が応募して社長に就任し、見事に黒字路線に変えたということです。彼は「ここには、なにもないがあります」というちょっと変わったキャッチフレーズを出しておりました。また、女性小説家有川浩氏が書いた小説「県庁おもてなし課」を最近読みまして、その中の最後の対談で「その地域に行って、聞いた・見た・食べただけで終わっては、多分観光客は余り来ないだろう。観光に行く人たちはその地域と結びついた物語が欲しいのだ」と言われています。例えば、ユズで日本全国に発信した高知県馬路村は、ものすごく交通アクセスが悪くて不便なところですが、逆に言えばそこに物語性があるということで、今、ものすごい発展を遂げています。市長は、物語という言葉は今までのいろいろなところで使っています。私は、どうもぴんとこなかったのですが、改めて「そのような物語を県外から来る人たちは求めているのか」と納得しました。移住・交流は、ある意味ではそうした大館の物語を紡いでいながら「大館は、このようなところでこのような物語があったのか」と大館に来た人たちに物語を体験してもらうことができれば、すごい感動を与えることができるのではないかと思います。そのような点では方向性は間違っていないと思いますので、ぜひさまざまな面で頑張ってくださいと思います。終わります。

---

○議長（仲沢誠也君） この際、議事の都合により休憩いたします。

午前11時29分 休 憩

---

午後1時00分 再 開

○議長（仲沢誠也君） 休憩前に引き続き、会議を開きます。

佐々木公司君の一般質問を許します。

〔18番 佐々木公司君 登壇〕（拍手）

○18番（佐々木公司君） いぶき21の佐々木公司です。2016年も残すところあと26日となりました。ことしは内外ともに大変な変革の年でありました。イギリスのEU離脱、そして、アメリカの大統領選挙では前評判が高かったクリントン氏が敗れ、ドナルド・トランプ氏が大統領になることが決まりました。私自身のことを振り返ってみますと3月に雪道での転倒事故があり、最初は打撲・捻挫という診断でしたが、2カ月後に腱板断裂と診断され入院・手術をし、6月議会を欠席する事態に至りました。まだ自分自身のことしの10大ニュースはまとめていませんが、自分にとっていろいろな意味で節目の年であったように考えております。ことし最後の一般質問は7項目にわたり質問しますので、福原市長におかれましては明快な答弁をよろしくお願い申し上げます。

1点目、**鳥インフルエンザ（H5型）の対応について**であります。比内地鶏の本場である大館市としては、一たび鳥インフルエンザが蔓延するようなことになると、地域経済にとって大変な打撃となります。国内で鳥インフルエンザの感染が急速に拡大していることは、マスコミの報道で周知のとおりであります。ことしの冬、野鳥の感染が各地で続出し、環境省が最大級の警戒を発していましたが、11月下旬に新潟県北部の関川村の養鶏場の鶏、青森市では農場の食用アヒルから強毒性の高病原性鳥インフルエンザウイルスH5型が検出され、新潟県上越市では家禽も感染したというニュースが流れております。10月下旬までに本県秋田市の大森山動物園や岩手県・鳥取県・鹿児島県の4県で計19件報告されております。鳥インフルエンザが一旦蔓延しますと殺処分と土中に埋める作業を大勢で行うことになるため、陸上自衛隊も駆り出されているとのことでもあります。過去、国内での被害拡大の原因として養鶏場の衛生管理不備の問題や通報のおくれが指摘されております。このため、家畜伝染病予防法が2011年10月に全面施行されました。当市においても今までの教訓を踏まえ、**①監視対応と初動対策は万全か、②被害拡大防止体制は**できているのかどうか、この点について市長の見解をお伺いいたします。

2点目、**交流人口拡大について**であります。市長は人口減少に対して交流人口の拡大によって大館市の活性化を図ることを機会あるごとにお話しされております。今回の12月定例会の行政報告でも触れておりますが、**①日本経済研究所の一般社団法人秋田犬ツーリズムに対す**



**る報告書への対応は**どうかということでもあります。

次に、この報告書の中にも書かれていますが、全国からいろいろな人たちを交流人口として集めるために、名立るところではコンベンション協会等をつくってその対応に当たっております。例としましては、一般社団法人熊本国際観光コンベンション協会・一般社団法人宇部観光コンベンション協会・公益社団法人仙台観光国際協会・公益社団法人松山観光コンベンション協会・公益社団法人静岡観光コンベンション協会・一般社団法人鳥取市観光コンベンション協会等がございます。そういった中において、地域振興のために会議・集会・大会等の開催を図るには②**コンベンション協会等のような組織が必要だと考えておりますが**、福原市長いかがでしょうか。

③**全国プロモーションサミットの誘致は**についてであります。地域の魅力を積極的に発信する自治体同士が取り組みや情報を共有する全国シティプロモーションサミット2016が10月26日、27日に福井県坂井市で開催され、私も参加してまいりました。坂本憲男坂井市長、濱野健品川区長、須田善明女川町長などが町を元気にする取り組みを紹介しており、地域の魅力発信方法を探るサミットでありました。後でわかったのですが、去年は弘前市で開催されておりまして、ことしが福井県坂井市、来年は品川区で開催される予定だそうであります。ぜひ、当市においてもこのプロモーションサミットを誘致してはいかがかと思えます。市の持ち出し費用がほとんどないとうかがっております。これは行政並びに参画する企業が出資するという形で行われておりまして、大変に実のあるサミットであったように感じております。

④**インセンティブ旅行の誘致は**についてであります。大きな特徴のある例として言われているのがハウステンボスであります。リゾート地でコンベンションを開き、いろいろな企業の人たちをお迎えして宿泊・飲食・お土産の購入をしてもらうなど、かなりの規模で開催されております。ぜひ、そういった条件を大館市でも整えて対応してはどうでしょうか。

⑤**インバウンド対応は**であります。行政報告にありましたようにいろいろと実施しております。特に、東南アジア方面や台湾からの訪日観光客を含めて、大館市が受け皿として対応する場合に何を整備しなければならないのか、今何が足りないのかを十分に検討されているのかをお尋ねいたします。一つの例としまして、大館の名立たる観光地における看板表示や関係するパンフレットについて、日本語だけではなく英語・中国語・韓国語・台湾語等に多言語化する必要があると思えますがいかがでしょうか。

3点目、**あきた未来づくりプロジェクト**についてであります。11月8日の議員全員協議会でその全貌の説明がありました。その大きな目玉・柱となる①**観光交流センター「(仮称)ハチ公の駅」**は、**長期的な展望に立ってコンスタントに集客できる施設であることが望まれますが大丈夫でしょうか**。私としても大館の目玉的な施設になってほしいと願うものであります。比較しては大変失礼と思えますが、青森市が肝いりでつくったアウガが破綻した状況の中で青森市長が辞任に追い込まれた例があります。そのようなことがあってはならないと思いま

すので、ぜひ、長期的な展望により、すばらしい施設になるような計画・立案をしていただきたいと考えるものであります。

②**大型観光バスが多く駐車できる道の駅としての整備計画**はについてであります。この道の駅については以前も取り上げたことがあります。観光交流センターは道の駅という位置づけではないとかがっておりますが、車社会においてたくさんの人たちに訪れてもらうため、大型観光バスを何十台もとめることができる施設が大館にもあっていいのではないかと常日ごろ考えております。一応、大館には道の駅やたて・道の駅ひないがありますが、規模は小さいように思います。今、車社会に対応した魅力ある道の駅がいろいろとあります。例えば、西日本最大級の道の駅おおう桜街道では面積が3万7,000平方メートル、1億円のトイレを一つのうたい文句として観光客の話題を呼び、連日多くの人々でにぎわっていると聞いております。これは、この後の5点目の質問にもつながりますが、多くの人々が集まるような拠点が必要ではないかと痛切に感じる次第であります。

4点目、**秋田犬ツーリズムのテーマ「秋田犬」**についてであります。忠犬ハチ公のふるさととして秋田県が国内外に知名度を高めるため、渋谷のハチ公銅像の前で初めて開催した秋田犬と触れ合えるイベントが秋田魁新報や読売新聞の全国版で大きく取り上げられておりました。この日は秋田犬が5頭集まり、福原市長もはちくんキャップをかぶって参加し、秋田犬の里・ハチ公のふるさとを宣言したのは、つい1カ月前のことです。秋田県観光文化スポーツ部の草薙部長は「ハチ公は有名だが秋田犬だとは余り知られていない」「渋谷と秋田の縁を感じてもらいつつ、これを機会に秋田をPRしたい」とイベント時に述べております。その後に行われた①**秋田犬と触れ合えるイベント**では、白と虎柄の秋田犬が大人気でありました。私もその場において状況を見ていましたが、**ほとんどの人が「あきたけん」と呼んでおりました**。まだ「あきたいぬ」と呼んでいただけない状況であります。

そして、12月3日に世界秋田犬フォーラムが東京で開催され、福原市長が急遽参加されたことが12月4日付の秋田魁新報に大きく取り上げられており、また、4日朝5時のNHKニュースの全国版でも取り上げられていましたので、ごらんになった方も多いと思います。全国版で取り上げられたのは初めてではないかと思いますが、大変うれしいニュースでありました。このように②**秋田犬を取り巻く環境が随分と変わってまいりました**。そのニュースの中でも取り上げられておりましたが、人口減少に伴う飼育者の高齢化と飼育環境が変わっている中で、市としてどうすべきかを一つのテーマとして考えなければならないと思います。市としての対応をどのように考えているのかお伺いします。

5点目、「**明日の日本を支える観光ビジョン**」についてであります。御存じのとおり、外国人にぜひ日本へ行ってみたいと思ってもらえる形の日本の観光戦略であります。その中身として観光先進国への3つの視点と10の改革がうたわれております。その具体的な内容は時間の関係で割愛しますが、そのことを踏まえて①**広域観光戦略**についてどう考えるか。これは、小

畑市長時代に何度か取り上げておりますが、大館市だけではなく北秋田市・小坂町・鹿角市等、この地域一帯を含めた北東北の広域観光の戦略が必要であると思います。

②**北東北における観光プラン**についてであります。青森県・秋田県・岩手県の3県、本当は山形県・宮城県・福島県を加えればいいのでしょうかけれども、どこから観光客が入り、どのような経路を経て、どこへ行って、どこへ抜けていくのか、このような戦略をきちんと立てるべきではないかと思えます。

その中の一つとして、③**インバウンド時代の国立公園満喫プロジェクト**についてであります。現在、日本には国立公園が33カ所あります。国では、全国5カ所程度の国立公園において、民間の力を生かし体験活用型の空間へ集中改善すべきであることを述べながら具体的なプランを立てております。これに8カ所の国立公園が選定され、私たちの身近にある十和田八幡平国立公園も含まれております。いわゆるナショナルパークとしてのブランド化だそうであります。十和田八幡平国立公園は、大館が玄関口であるとよく言われております。大館にとって関連性の高いものとして、どのように計画していくのでしょうか。

あわせて、④**世界遺産（白神山地）や森吉山県立自然公園等の活用**も考えるべきではないかと思えます。いずれも当市にあるものではありませんが、どのように有効活用するのかが今後の大館市の発展に大きく影響するものと考えますので、本腰を入れて取り組んでいただきたいと考えております。

6点目、**片貝家ノ下遺跡、大館城・武家屋敷跡の今後の活用**についてであります。片貝家ノ下遺跡の活用については、以前にも取り上げたことがあります。①**10月29日「平安時代の北秋蝦夷社会シンポジウム」**に参加しました。元慶の乱、十和田火山噴火の影響との関係、また片貝家ノ下遺跡で見つかった竪穴建物跡は火内村の一部かと言われており、歴史上で火内という地名がこのときに出てきます。基調講演として、岩手大学の八木教授が平安時代の北奥蝦夷社会について、引き続き秋田県埋蔵文化財センターの高橋氏が秋田県北秋の蝦夷社会について講演され、北秋の古代集落や片貝家ノ下遺跡が語ること、大館をめぐる人や物の動きについての説明がありました。

②**11月13日**、昨年に引き続きことしも「**片貝家ノ下遺跡見学会**」が開催され、私は小学6年生の孫を連れてこの見学会に参加いたしました。重要な遺構を検出した場所3カ所（A・B・C）の説明がありました。主な検出遺構は、平安時代の竪穴建物跡1棟、掘立柱建物跡1棟、竪穴・掘立柱併用建物跡1棟、これは上部構造がわかる例では国内初と言われているようです。そして、平安時代の水田跡——全体が降下火山灰層に覆われていることから降灰時に水田が存在していたことが明確であるとの説明でありました。我が国の考古学・古代史研究にとって、大変重要な遺跡の発見であるということも説明されておりましたので、これを踏まえて今後どのように活用していくのかをお伺いいたします。

③**11月26日「大館城跡発掘調査現地説明会」**が行われました。ここでは現在新庁舎建設の

ための発掘調査をしております。大館城二の丸に位置する武家屋敷跡で、県内では発見例の少ない池が発見され、久保田藩の武士の暮らしを知る上で重要な遺跡でありました。その当時に思いをはせることができ、大変興味深いものでありました。福原市長は、日ごろ歴史まちづくりのお話をされておりプロジェクトに取り組んでいますが、残念ながら大館は城下町でありながら戦後四度の大火で、それらしいものがほとんど残っておりません。そのような中、武家屋敷跡を見られるということで、大変にわくわくした気持ちでこの見学会に参加いたしました。大館にはそのような遺跡がいろいろとあるようですが、ぜひ、これらを今後のために生かしてほしいと考える次第であります。

7点目、**大館郷土博物館の拡充整備について**であります。大館郷土博物館は高校の跡地を活用し、本年で開館20周年となりました。11月3日文化の日に大館郷土博物館主催のミュージアムツアーに参加いたしました。参加者は10人足らずでありましたが、博物館の職員から館内の説明を詳しく受け、予定された時間をオーバーしたほどでした。収納物について縄文遺跡を初め、大館を知るさまざまな資料について改めて説明を受け、大変勉強になり充実した時間を過ごすことができました。県内の郷土博物館に余り行くことはないのですが、ことしは小坂町の郷土博物館に行きました。それに比べて**①大館郷土博物館はピカーではないかと思えます。多くの人（県内外・インバウンド客）を呼び込むためにもさらなる拡充整備が必要と考えますが**いかがでしょうか。その例として、多言語表示・展示レイアウト・バリアフリー・館内のトイレが挙げられます。また、昭和レトロの生活シーンは、認知症対応において大変有効であることがいろいろな事例で紹介されております。そこに高齢者を連れていくことは、介護予防にも有効ではないかと感じますがいかがでしょうか。

**②展示物の耐震対応について**であります。3.11の余震がいまだに続いている状況下であり、マグニチュード7クラスの地震が来た場合、貴重な遺物・展示物が崩れ落ちないか心配するものであります。あわせて、来館者の安全を守るための対応はどこまで可能なのかをお尋ねいたします。私たちは過去の遺跡を今からつくることはできません。そのようなものを大事にして有効活用し、ぜひ、大館郷土博物館に行ってみたいと思われるような整備や拡充をお願いしたいと思います。

市長の答弁をよろしくお願ひし、質問を終わります。御清聴ありがとうございました。**(拍手) (降壇)**

#### **〔市長 福原淳嗣君 登壇〕**

○**市長（福原淳嗣君）** ただいまの佐々木議員の御質問にお答えいたします。

1点目、**鳥インフルエンザ（H5型）の対応について**。①**監視対応と初動対策は万全か**、②**被害拡大防止体制は**の2点につきましては関連がありますので一括してお答え申し上げます。市では毎年、冬の渡り鳥の飛来シーズンを迎える時期に鳥インフルエンザ予防対策会議を開催しており、ことしは11月4日に開催し、生産者・JA・県などの関係機関等と予防対策

行動計画を確認した上で、連携と警戒をさらに強化することとしております。その後、秋田市や盛岡市など国内の複数箇所で高病原性鳥インフルエンザウイルスが検出され、移動制限区域の設定等の防疫措置が実施されたことを受け、市内の比内地鶏生産者や養鶏事業者に対し、改めて野鳥や野生動物の侵入防止、農場出入り口での人や車両の消毒など、飼養衛生管理対策を徹底し予防に万全を期するよう通知しております。また、今月一日、野鳥における鳥インフルエンザの注意喚起について市ホームページに掲載し、死亡野鳥を見つけた場合の対策など適切な対応を呼びかけております。今後も生産者や県北部家畜保健衛生所を初め、関係機関との連携と警戒の強化により予防に万全を期してまいります。

2点目、**交流人口拡大について。**①**日本経済研究所の一般社団法人秋田犬ツーリズムに対する報告書への対応は**についてであります。今回の報告では、秋田犬ツーリズムのテーマである秋田犬やペットと泊まれる宿泊施設を整備し、ペットと触れ合える聖地とするよう提案されております。国内の犬の飼育数は約1,000万頭であり、秋田犬の知名度の高さを生かし、この市場に対してペットと触れ合える聖地とする施策は大変有効であると考えております。全国で100余りあるDMOの中でも、ペットを前面に出した取り組みをしている団体は秋田犬ツーリズムのみであり、今後もこのオンリーワンの強みを生かし、連携市町村、ひいては県とも協議を進めながら積極的に取り組んでまいります。

②**コンベンション協会等の総合的組織は、③全国プロモーションサミットの誘致は、④インセンティブ旅行の誘致は**の3点につきましては関連がありますので一括してお答え申し上げます。大館樹海ドームで10月に開催された本場大館きりたんぼまつりや新・秋田の行事、肉の博覧会に多くの方々が訪れたことは、北東北において広域連携イベントを開催する場としての大館樹海ドームの価値を示すものであったと考えております。一方、このような大きなイベントを開催できるのは、中心となる本場大館きりたんぼまつり実行委員会を初め、多くの子供たちや市民の協力があったからこそであると考えております。佐々木議員御提言の全国シティプロモーションサミットや企業のインセンティブ旅行などにつきましては、こうした関係諸団体と連携をとりながら受け入れの可能性を探ってまいります。

⑤**インバウンド対応は**についてであります。市では現在、インバウンド誘致のため多言語表示の案内板を整備しているほか、どこでも博物館事業としてスマートフォンなどで簡単に多言語サイトにアクセスできる史跡標柱を設置することとしております。今後もインバウンド受け入れのため、特に案内板等の設置を進めていきたいと考えております。また、本市には、特にアンケートで外国人が東北地方の魅力として挙げております日本らしい風景や自然・温泉・現地の名物・歴史・伝統文化の全てがあることに加えて、世界的に有名な秋田犬の本場としてオンリーワンの素材を有していることが非常に大きな強みであると認識しております。これらの素材を生かし、日本らしい風景の中で秋田犬と触れ合いながら体験・食・温泉・歴史・文化を楽しんでいただくようなコンテンツづくりが今後は重要になると考えております。さらに、

この分野に関しては積極的に進めてまいりたいと捉えております。

3点目、**あきた未来づくりプロジェクト**。①**観光交流センター「(仮称)ハチ公の駅」が青森市のアウガの二の舞にならないように**についてであります。観光交流センター「(仮称)ハチ公の駅」は、秋田犬を見て・触れて・楽しめるアミューズメント的な機能と忠犬ハチ公の物語を伝える施設であり、まさに観光交流拠点として整備したいと考えております。秋田犬を基軸とし全国から注目される施設として、また、周辺に整備する秋田犬ふれあい広場と多目的広場との相乗効果によるにぎわい創出により、市民はもちろんのこと、観光客にも楽しんでいただける施設となるよう進めてまいります。

②**大型観光バスが多く駐車できる道の駅としての整備計画は**についてであります。来るお客様をふやすということが今の市政のかなめにあります。しかし、大館市役所はおもてなしのプロフェッショナル集団ではないという自覚も持っております。だからこそ、空路のパートナー・鉄道のパートナー・陸路のパートナーが必要だということをきちんと認識しております。こうした施策のもと、歴史まちづくりに基づいて大館らしさを深堀りする一方、ハチ公の駅のほか、大館駅周辺整備事業を通じて、まずは鉄路と陸路のパートナーを掲げていく施策を実行いたします。その先に大型観光バス等、市内の町の周遊性あるいは回遊性・利便性を深めた場所はどこが適当なのかも踏まえて検討してまいりたいと考えております。

4点目、**秋田犬ツーリズムのテーマ「秋田犬」**について。①**渋谷での秋田犬ふれあいコーナーでは「あきたけん」と大半の人が呼んでいる**についてであります。佐々木議員御指摘のとおりであります。渋谷区くみんの広場に私も行ってまいりました。秋田犬ふれあいコーナーに足を運ばれた方々が秋田犬を「あきたけん」と呼んでいることを私自身耳にしております。私はこれが逆に「あきたいぬ」とPRする絶好の機会と捉えまして、はちくんキャップをかぶり丁寧に説明させていただいたところであります。「あきたけん」と呼ばれているからだめなのではなく、「あきたいぬ」ときちんとPRする機会として、これからも一生懸命頑張ってまいりますので御理解を賜りますようお願い申し上げます。

②**秋田犬を取り巻く環境について（人口減少と飼育者の高齢化と飼育環境）**であります。前段、秋田犬に係る施策をどのように認識しているのかという佐々木議員の質問にまずは答えたいと思います。先般、佐々木議員御案内のとおり、週末の日程を急遽変更しまして、世界秋田犬フォーラムに出てまいりました。今の大館の施策は、ふるさと秋田のために我が大館ができること、ふるさと秋田のために我が大館ができる強みというレベルで秋田犬を捉えておりましたが、世界秋田犬フォーラムに出席させていただきいろいろな関係者とお話をしている中で、さらに上のレベルで秋田犬に係る施策の展開が今後予想されるだろうということを確認いたしました。こうした脈絡のもとでふるさと秋田のために我が大館ができること、あるいはふるさと秋田のために我が大館がしなければならないこととして、市では、まず秋田犬の飼育者をふやす取り組みとして、保存会の協力を得ながら県と協働で秋田犬の活用による観光地域づくり

推進事業を進めているところであります。飼育教室の開催、動物取扱責任者の資格取得支援などのほか、会員への支援策として、餌代の支援も行っております。また、市・シルバー人材センター・商工団体・金融機関などで組織する高齢者活躍支援協議会による生涯現役促進地域連携事業では、秋田犬を連れて歩く観光案内人の養成も行うこととしております。現在、市・県・秋田犬保存会・商工会議所・秋田犬ツーリズムなど、関係団体が連携し秋田犬を本県PRの核として、同じ方向性で取り組んでおりますので、ぜひにとも御理解をお願いいたします。

5点目、「明日の日本を支える観光ビジョン」について。①**広域観光戦略**について、②**北東北における観光プラン**について、③**インバウンド時代の国立公園プロジェクト、国立公園満喫プロジェクトに十和田八幡平が選定されたことを活用**、④**世界遺産（白神山地）や森吉山県立自然公園等の活用**、この4点につきましては関連がありますので一括してお答え申し上げます。まずもって、佐々木議員から具体的な御示唆をいただきましたことに感謝申し上げます。ことし3月に策定された明日の日本を支える観光ビジョンを実現させるため、3月26日に北海道新幹線が開通し、新幹線で北海道から九州までがつながることとなりました。その後政府においては、東京オリンピック・パラリンピックまでにインバウンド50万人を3倍の150万人にするという目標を掲げたわけですが、そうした脈略のもと、7月1日には仙台空港が民営化され、LCCによる世界に開かれた東北の玄関口として開港されたところであります。こうした中において、既に世界に開かれている北海道の玄関である函館空港、いわゆる仙台イン函館アウト、函館イン仙台アウトの広域観光周遊ルートの中に、いかに大館を位置づけていくのが重要であるという思いから秋田犬ツーリズムを関係各位の御理解と御協力のもとに立ち上げました。さらに、仙北市の門脇市長とともに3D観光を目指すということに対し、8月1日に函館市の工藤市長からも満腔の了解を得たところであります。佐々木議員からいただいた魅力的な御提言を実現するためにも、まずは3D観光を具体化していきたいと考えております。東北のインバウンドを3倍にするためにも、既に世界に開かれている北海道と東北をつなげる政策メニューとしてもこの3D観光は非常に有効であると認識しておりますので、どうか御理解を賜りますようお願い申し上げます。また、このような流れの中において、十和田八幡平国立公園・世界遺産白神山地・森吉山県立自然公園などは、地理的に本市を中心として点在していることから関係市町村を巻き込んだ県北地域の観光戦略、さらには北東北の観光戦略としてこの政策を成長させる必要があると捉えております。佐々木議員御紹介のとおり、国の国立公園満喫プロジェクトでは、十和田八幡平国立公園が先行的・集中的に行う国立公園の整備事業に選定されておりますことから今後はこの施策の進捗状況を十分に注視し、本市も含めた広域的観光振興を推進していくとともに、まさに俯瞰の視点をもって取り組んでいくことが佐々木議員の御提言を実現するために必要なことであると認識しております。引き続き御指導を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

6点目、**片貝家ノ下遺跡、大館城・武家屋敷跡の今後の活用**について。①**10月29日「平安**

**時代の北秋蝦夷社会」シンポジウムに参加して、②11月13日、昨年に続きことしも「片貝家ノ下遺跡現地見学会」に参加して、③11月26日「大館城跡発掘調査現地説明会」に参加して、**この3点につきましては関連がありますので一括してお答え申し上げます。平安時代の北秋蝦夷社会シンポジウムには、私も出席し会場の熱気に触れさせていただきました。片貝家ノ下遺跡は、915年の十和田火山噴火により発生した火山泥流により、私たちの祖先の暮らしがそのままパックされた状態で発見されたもので、佐々木議員御紹介のとおり国内初とも言われる貴重な遺跡であり、海外からも注目される貴重な文化財であると認識しております。今後どの程度、あるいはどのレベルの調査が行われるかは未定ではありますが、高度な技術を要すると考えられるため、大学など専門機関を交えた取り組みで調査が進むことを期待しております。一方、裁判所裏側の大館城二の丸の発掘調査では、武家屋敷の池や井戸などの遺構が発見されました。これは大館城跡で行われた初めての本格的調査の結果であり、確かな形で記録に残し市民に提供できるように努めてまいります。片貝家ノ下遺跡・大館城跡のいずれも先人から受け継いだ本市にとって貴重な宝でありますので、なぜ価値があるのか、何ゆえ意義があるのかを市民の皆様きちんと伝えていけるよう取り組んでまいりたいと考えております。

7点目、**大館郷土博物館の拡充整備について。**①内容的には、**県内市町村の中でもピカ一ではないか。多くの人（県内外・インバウンド客）を呼び込むためにもさらなる拡充整備が必要と考えるが、**②**展示物の耐震対応は、**この2点につきましては関連がありますので一括してお答え申し上げます。まずもって、大館郷土博物館を高く評価していただいておりますことに感謝申し上げます。大館郷土博物館の入館者数を確認してみましたところ、ピークは平成13年度の1万3,542人であり、昨年度は約5,800人となっております。市外からのお客様の比率は高く、近年は3割程度が市外からのお客様ではないかと推測しております。現在の施設は、バリアフリー・セキュリティー・貴重品を収蔵するための空調設備など、多くの課題があることも承知しておりますが、まずは耐震性能を調査する必要があると考えております。本定例会に関係予算案を提出しておりますので、よろしく御審議をお願いいたします。なお、資料の展示につきましては、他の博物館を参考にしながら地震対策等を講じてまいりたいと考えております。

以上であります。よろしく御理解を賜りますようお願い申し上げます。**(降壇)**

○18番（佐々木公司君） 議長、18番。

○議長（仲沢誠也君） 18番。

○18番（佐々木公司君） 一問一答でお願いいたします。1点目の鳥インフルエンザの対応についてですが、一旦発生しますと自衛隊を含めて非常に多くの人手を必要とすることになります。その場合の初動対応のシミュレーションはできているのでしょうか。

○市長（福原淳嗣君） 議長。

○議長（仲沢誠也君） 市長。



○**市長（福原淳嗣君）** ただいまの佐々木議員の再質問にお答えいたします。鳥インフルエンザについての対応はきちんとできております。殺処分をする際の自衛隊の出動に関しては秋田県知事の権限となりますが、それ以前の段階としての連絡網の構築が、予防あるいは発生した際の可及的速やかな対応のために一番大切であることを産業部長とともに認識しております。

○**18番（佐々木公司君）** 議長、18番。

○**議長（仲沢誠也君）** 18番。

○**18番（佐々木公司君）** 2点目の交流人口拡大について、コンベンション協会等の総合的組織についての前向きなお話がありました。10月にきりたんぼまつりを初めとするさまざまな行事が大館樹海ドームで行われましたが、それらは、はっきりとした目的があって実行委員会をつくり進めていくものです。先進地では、誘客するために公益社団法人や一般社団法人のコンベンション協会等をつくり上げていますが、大館市では北東北の中心として大館樹海ドームを活用しながら見本市などのいろいろな行事を開催するための組織を立ち上げることを検討していないのでしょうか。

○**市長（福原淳嗣君）** 議長。

○**議長（仲沢誠也君）** 市長。

○**市長（福原淳嗣君）** ただいまの佐々木議員の再質問にお答えいたします。私は2つのやり方があると思っています。例えば、目標に際し新たな組織をつくることも一つのやり方だと思いますが、むしろ現場で動いている既存の組織に落とし込んでいくやり方で大館らしいモデルをつくっていきたいと考えています。市長に就任させていただいて以来、1年半が過ぎましたが、この間に大館とともにいろいろなことを開催しようという呼びかけが県境を越えて岩手県や青森県からも来るような時代になっています。そういうときに、新しい組織を立ち上げるだけのマンパワーをいかにしてつくっていくのか。イベントには時間的な制約があります。例として、平成29年春のイベントやそれに関係するものがいろいろとありますが、既存の組織を活用しつつ情報処理能力を上げるために行政が手伝えることと民間でしていただくことを分け合うことで、将来的にはある程度大きいイベントの周知やフィルムコミッションのような映画撮影の誘致活動などをいつでも展開していけるのではないかと捉えておりますので、よろしく御理解を賜りますようお願い申し上げます。

○**18番（佐々木公司君）** 議長、18番。

○**議長（仲沢誠也君）** 18番。

○**18番（佐々木公司君）** 3点目の大型観光バスが多く駐車できる道の駅について、大館から弘前に行く場合は、道の駅いかりがせき、道の駅ひろさきサンフェスタいしかわがあり、いつでもたくさんの車がとまって利用されております。そして、国土交通省の肝いりの大きな道の駅が二ツ井にできると聞いております。大館市としても道の駅のような機能を備えないとただの通過地域になりはしないかという心配があります。大規模な道の駅はすぐにはできないでし

ようけれども、先ほど紹介したとおり道の駅おとう桜街道は面積が3万7,000平方メートルでトイレには1億円を使っており、そのトイレを見に行くことが楽しみであると話題を呼んでおります。そのような展望があってもいいのではないかと思うのですが、この点はいかがでしょうか。

○市長（福原淳嗣君） 議長。

○議長（仲沢誠也君） 市長。

○市長（福原淳嗣君） ただいまの佐々木議員の再質問にお答えいたします。私自身、県北全体に入ってくるお客様の流れがこの1年半で大きく変わっていると認識しています。NEXCO東日本のデータにより、例えば、きりたんぼまつりに来るときの仙台や盛岡からのお客様の大体の量がつかめるようになりました。先般、日沿道が鷹巣インターチェンジまで開通しましたが、そうした流れの中、青森港でインバウンドのお客様をおろし、北東北を1日周遊してもらい、夕方に能代港でキャッチして出るというメニューが組まれました。北東北の真ん中にある大館への動線が変わっていく中で、どのような場所にどういう施設があればいいのかを東京オリンピック・パラリンピックまでに議論していかなければならないと考えております。そのような中で必要なことは、大館市単体で道の駅を捉えるべきではないことと考えております。そのことも含めまして、周辺自治体や県とも協議しながらできるだけ速やかに、どのような場所がいいのかについても検討を進めていきたいと考えておりますので、御理解を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

○18番（佐々木公司君） 議長、18番。

○議長（仲沢誠也君） 18番。

○18番（佐々木公司君） 4点目の秋田犬を取り巻く環境に関して、12月4日朝5時の全国ニュースで取り上げられ、「ゆめ」の婿殿をどうするのか菅官房長官とも話をしながら進めていくということでありました。いずれ、プーチン大統領が日本に来て安倍総理に会うことになっていきますので、時間的に余り余裕はないのですが、大館市が動く必要があるのかどうか。何か準備があってしかるべきではないかと思いますが、この点について可能であればお答えください。

○市長（福原淳嗣君） 議長。

○議長（仲沢誠也君） 市長。

○市長（福原淳嗣君） 外交に関しましては、非常にデリケートな問題ですので、この場での発言は控えさせていただきます。御理解を賜りますようよろしくお願い申し上げます。ただし、これは菅義偉官房長官の名誉のために一言申し上げます。菅官房長官は、あの席上では新聞に載っているようなコメントは一切出しておりません。あくまでもメディアが先行して放映している形であります。これから国と国が外交を進める上でどうなのだろうかと捉えております。以上であります。よろしくお願いいたします。

○18番（佐々木公司君） 議長、18番。

○議長（仲沢誠也君） 18番。

○18番（佐々木公司君） 最後になりますが、郷土博物館についてであります。私は知らない市町村に行くところまでその地域の郷土博物館等を訪れるようにしております。昨年、たまたま訪れた青梅市の郷土博物館に比べれば大館郷土博物館はすごいです。全国の博物館等をざっと調べてみますと北海道にはいろいろあります。例えば札幌市の場合は、札幌市アイヌ文化交流センター・札幌市交通資料館・札幌市資料館・札幌市水道記念館・札幌市青少年科学館・札幌市手稲記念館・札幌市豊平川さけ科学館・札幌市埋蔵文化財センター・サッポロビール博物館・札幌村郷土記念館等いっぱいあります。函館市でいえば、函館市青函連絡船記念館摩周丸・函館市文学館・函館市北洋資料館の3つがあります。近くの本州でいえば、八戸市縄文学習館・八戸市博物館・八戸市埋蔵文化財センター・八戸市水産科学館・八戸市ポータルミュージアム（はっち）等いろいろ整備されております。大館市においては、美術館・博物館・先人顕彰館の話が出ていますので、もっと拡充整備して人を呼び込む施設として考えてみてはどうかと思えます。この点はいかがでしょう。

○市長（福原淳嗣君） 議長。

○議長（仲沢誠也君） 市長。

○市長（福原淳嗣君） ただいまの佐々木議員の再質問にお答えいたします。私も同感でございます。まずは大館に興味を持って来てもらうことが大切です。その後何回も大館に来ていただけるきっかけは、我が大館がお客様の知的好奇心をどのくらいあおることができるのか、応えることができるのかだと考えております。今ある郷土博物館も含めて、そのような分野の充実をさらに図っていきたいと考えておりますので、どうか御理解を賜りますようお願い申し上げます。

---

○議長（仲沢誠也君） 次に、佐藤久勝君の一般質問を許します。

**〔13番 佐藤久勝君 登壇〕（拍手）**

○13番（佐藤久勝君） 平成会の佐藤久勝です。議員としての経歴は短いですが、年だけは生きた化石人として、大館市の活性化のため徘徊しながら懸命に頑張っております。月日のたつのは早いもので平成28年も師走に入り、ことしも残すところあとわずかになりました。ことしのえとはさる年、「申」の文字には伸ばすという意味もあり、果実がだんだんと成熟して固まっていく状態を言うようですが、福原市政2年目のことしは忠犬ハチ公に見る秋田犬に特化した観光施策や函館・角館・大館の3D観光構想、歴史まちづくり事業、さらにふるさとあきたラン大館大会や新・秋田の行事に見る大型イベントの開催など、打ち出してきたさまざまな施策やイベント誘致に東奔西走され、成熟とまではいかないものの「大館というところ。」が内外から非常に注目された年であったのではないかと考えております。さて、年が明けて平成29

年のえとはとり年ですが、「酉」の日は実りの多い日と言われます。実らせるためには種をまき、水をやり、木を育てる必要があります。そのためには人が欠かせません。小池東京都知事が言われる都民ファーストならぬ大館市民ファーストにしっかりと軸足を置いて、「おおだてびと」の豊かさを築き上げながらこれまでに打ち出してきた政策が真の実りのものになるよう、我々議会人も一層の努力を傾注するとともに、福原市政に大いに期待を申し上げます。それでは、通告に従い3点について質問させていただきます。

1点目、**大館・鹿角医療圏の近い将来を見据えた病院のあり方について**であります。平成27年12月1日現在の大館・鹿角医療圏の人口は11万4,041人で、平成26年同月と比較して3,541人、率にして3.19%減少しております。一方で高齢化率は、全国第1位である秋田県の平均を6.2%上回っております。また、国立社会保障・人口問題研究所の人口推計によりますと当医療圏の2025年推計人口は9万6,616人で、平成27年12月1日現在の人口と比較しますと1万7,405人の減少となっており、少子高齢化による人口減少がますます懸念されるところであります。一方、当医療圏の医療機関は秋田大学・弘前大学・岩手医科大学及び自治医科大学の4大学から主に医師の供給を受けているとうかがっております。しかし、各大学とも医局員の不足から距離も遠く、交通の便が必ずしもよくない当地域への医師の派遣は大変厳しい状況となっており、大館市立総合病院・秋田労災病院・かづの厚生病院などにおいては、医師の引き揚げに伴う診療体制の縮小などが見受けられるとうかがっております。このような状況のもと、当医療圏の医療機関の入院外来患者数は、中核的役割を担っております大館市立総合病院を初めとして軒並み前年比マイナスという状況となっており、今後、大館・鹿角医療圏における病床数は400床以上過剰になる見込みと言われているため、地域における医療供給体制の再構築が喫緊の課題であると考えております。大館市立総合病院は、二次医療機関として大館市民のみならず県北地域の住民のために日夜救急診療や、がん診療連携拠点病院としての務めを果たしておりますことに深く感謝申し上げます。しかし、医師の皆様の健康は大丈夫でしょうか。国の医療費抑制方針により、病院から地域へ、そして在宅へという大きな流れがあることも承知しております。また、開業医の高齢化や閉院に伴い、市立総合病院では一次医療も行わなければならない診療科もあるとうかがっております。このままでは懸命に頑張っておられる医師が疲れ果ててやめてしまい、残りの医師にその負担がかかってさらにやめる医師が出るという悪循環に陥ってしまうことにならないかと心配をしているところであります。今後とも救急医療や精神科医療など、病院だけでは賄うことのできない部分については、国が定めている基準に基づいて行政が支援をしていくべきであると思っております。そこでお伺いいたします。全国的には、同じ地域内の複数の病院が経営統合により独立行政法人化して業績を回復した例があると聞いております。今後、医師不足や人口減少を考えますと、近い将来を見据えた場合、総合病院・扇田病院・労災病院、そして、かづの厚生病院という公的医療機関において、それぞれの医療機関単独での経営努力には限界があり、今のままでは立ち行かなくなるのではないかと思います。

います。特に扇田病院は築34年を経過し、設備や施設などの老朽化により将来は大館市の財政を圧迫していくのではないかと危惧しているところであり、今後の近い将来を見据え、地域医療構想を真剣に考える時期だと思っております。**総合病院・扇田病院・労災病院・かつの厚生病院、そして秋田県を交えて独立法人化とした医療の将来構想の議論をスピード化し、圏域の医療体制の整備を着実に進めていただきたい**と考えております。少子高齢化時代を見据えた当地域の医療供給体制を安定化させ、地域住民の健康を守るとともに安心して暮らしていけるよう、今から対策を講じ準備を進めていただきますよう要望いたします。このことについて、病院の開設者であります福原市長にお伺いいたします。

2点目、**スポーツによる地域の活性化について**3点質問いたします。現在、スポーツ大会やスポーツイベントが全国各地で開催され、参加者の健康増進はもちろん、地域の活性化に大きく寄与しているところでもあります。当市においても山田記念マラソン大会や各種の陸上競技大会・年代別野球大会・バレーボール・バスケットボール・テニス大会など、各種のスポーツ大会が開催され、多くの参加者でにぎわいを見せているところでもあります。そこで、このスポーツをもっと盛んにし、地域の活性化につなげられないかを質問いたします。

①**全国規模のスポーツイベント実施による地域活性化について**であります。市内で開催されるスポーツ大会には、市民参加主体のものと全県や全国規模のものがありますが、全国規模の大会を誘致することは、大会期間中の宿泊や食事、そして会場での特産品の販売など、かなりの経済効果が期待できると考えますし、他産業への波及効果も期待できるのではないのでしょうか。各種スポーツ団体への大会誘致の働きかけを強化すべきと考えますが、市長のお考えをお伺いいたします。

②**スポーツ施設の整備と利活用について**であります。市内には多くのスポーツ施設があり、市民に利用されているところでもあります。特に、市の中心エリアと言うべき長根山運動公園には陸上競技場・野球場・テニスコートがあり、日常的に利用されております。また、硬式野球県北地区春季大会と秋の新人戦は長根山球場・達子森野球場・田代野球場で開催されてきました。これらの施設の老朽化が著しいと感じているのは私だけではないと思っております。これらの施設の計画的な改修整備が必要と考えますが、そのお考えをお聞かせ願います。また、予約が容易で空き状況が簡単にわかるよう、利用者にとって親切で使いやすいサービスの向上に努めていただきますよう要望いたします。

③**オリンピックまで見据えたスポーツ合宿の誘致について**であります。秋田県や能代市・鹿角市では、県外のスポーツ団体を対象としたスポーツ合宿誘致補助制度を制定しているようであります。内容は、県外のスポーツ団体が市内で合宿を実施した場合、参加人数や宿泊日数に対し補助金を交付するものであり、当市でも今年度からスポーツ合宿促進事業を始めたとうかがっております。当市にある樹海ドームなどのスポーツ施設を活用して長期間にわたり滞在していただくことは交流人口の拡大につながるほか、一流選手の活動を直接目にしたり指導を

受けたりする機会の増加は、市民や学生の技術向上にも大いに役立つものと考えます。この事業を積極的にアピールして推進していくべきと思いますが、市長の考えをお聞かせください。当地で合宿した選手が将来、オリンピックなど世界で活躍できるようになればとの期待を込めての質問であります。

3点目、**新庁舎の建設費について**であります。新庁舎の基本設計業者も決まり、今後は新庁舎の建設に向けて本格的に動き出すことになろうかと思えます。せっかくの新庁舎ですので、市民の声や働く職員の声も十分に取り入れ、使い勝手のよい、そして、市の象徴となるような庁舎にしていきたいと願っているところであります。そのような中、私が心配しておりますのは、①**基本計画で示されたとおりの事業費でおさまるのか**ということであります。最近、県内で庁舎を建設した秋田市や潟上市は、建設費が当初の計画より10億円を超える増額となっております。また、現在建設中の能代市では、当初計画では4階建て床面積約7,000平方メートル、概算事業費が約36億3,000万円でありましたが、建設資材や労務費の高騰などによりまして、事業費が48億6,000万円と33.8%もの増加となっております。当市の基本計画では、床面積が約7,000平方メートルで概算事業費が36億3,000万円となっており、床面積・概算事業費ともに能代市の当初計画とほぼ同じ状況であります。当市の計画には、今後の建設資材の高騰分や労務費の増加分、さらには消費税の増額分なども積算されているとの説明がありました。相当に設備関係などを抑えないと計画どおりの額にはおさまらないのではないかと他市の例を見ながら感じているところであります。さらに、今後は2020年に予定されている東京オリンピック・パラリンピック関連工事等のため、建設資材や労務費の高騰が考えられることからこのまま推移しますと、計画している庁舎建設事業費は40億円を超えるのではないかと危惧しているところであります。また、その財源については、合併特例債17億円、庁舎基金17億5,000万円、一般財源1億8,000万円としておりますが、歴史まちづくり事業や駅前周辺整備事業など大きな事業がめじろ押しの中、事業費が膨らんだ場合、当然一般財源が増加することになり、他の事業に影響が出てくるのではないかと懸念しております。事業費の増加は好ましいものではありませんが、増額されるようなことになった場合は、上限だけにこだわらず補助金など可能な限り財源を確保するとともに、市民の声や職員の意見などを反映させるなど、せっかくだつくる庁舎であり、市の中心となるべき施設でありますので、中途半端にだけはしてほしくないと考えております。

私は、建設資材や労務費が増加するという前提のもとに事業費を積算しておく必要があると考えておりますが、もし、②**事業費が大幅に膨らむことになった場合、現在の計画をどうするのか**も含めて計画を進めておられるのか。増加した額で建設すればその財源はどうされるのか。また、そのめどは立っておられるのか。逆に事業費を当初予定どおりに抑えたとすれば、面積の縮小や機能の低下などが予想されますが、それをどのようにするのかなどを想定されているのかどうかお伺いいたします。

私といたしましては、先ほど述べましたように基本計画に示された面積や事業費の上限だけにこだわらずに、事業費が増加しても有効な財源を確保することによって③**市民の声や働く職員の意見を反映させ、大館市の象徴となるような庁舎にしてほしい**と願っております。

以上で、私の一般質問を終わります。御清聴ありがとうございました。(拍手)(降壇)

**〔市長 福原淳嗣君 登壇〕**

○**市長(福原淳嗣君)** ただいまの佐藤久勝議員の御質問にお答えいたします。初めに、佐藤久勝議員におかれましては、市政運営に対する評価をいただきましたことに感謝申し上げます。「大館というところ。」この大館のPRに際しましては、はちくんポロシャツの事例を出すまでもなく、議会の皆様の御理解と御協力があればこそと認識しております。今後とも引き続き倍旧の御指導を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

1点目、**大館・鹿角医療圏の近い将来を見据えた病院のあり方について。総合病院・扇田病院・労災病院・かづの厚生病院、そして秋田県を交えて独立法人化とした医療の将来構想の議論をスピード化し、圏域の医療体制の整備を着実に進めていただきたい**についてであります。まずもって佐藤議員におかれましては、病院の医師に対する温かいねぎらいのお言葉を頂戴いたしました。重ねて感謝申し上げます。佐藤議員御指摘のとおり、当地域におきましては人口減少と医師不足のため病院経営が大変厳しい状況となっております。市立病院につきましては、国が策定を求めている新たな病院経営改革プランについて本定例会においてその素案をお示しし、年度末までに総務省に提出する予定としているところであります。この改革プランの策定に当たっては、総合病院・扇田病院が大館・鹿角医療圏において果たすべき役割や経営の効率化のほか、新たに導入した地域包括ケア病棟・認知症疾患医療センターなどの効果についても盛り込むなど、両病院が存続するためにしっかりと努力し、現在の枠組みで経営改善を目指す内容としております。県立病院を持たない秋田県においては、自治体の病院のほか、農林水産省所管の厚生連病院、厚生労働省所管の労災病院などさまざまな医療機関が協力して住民の健康を守っていく必要があります。それぞれ経営の母体は異なりますが、この地域に中核的病院を存続させることが絶対に必要であるとの思いは私も佐藤議員と全く同じであります。実は、総務省所管の自治体病院、農林水産省所管の病院、厚生労働省所管の病院などの連携に関しましては、こうした問題意識を反映した国会議員の勉強会、いわゆる議員連盟がございます。私自身、積極的にこの議連から得られる情報収集を含め、さらに勉強させていただきたいと考えているところであります。今後、国の医療政策や周辺医療環境の変化により、病院の統合や経営形態の変更などの議論が高まったときには県と協議し、市議会とも十分に御相談させていただいた上で、どのような枠組み・形態が適しているのかなどについて検討してまいりたいと考えております。そのためにも、県の大館・鹿角二次医療圏における地域医療構想の策定状況を確認しながら今後の地域の人口推移・患者の動向・医師確保の状況等を見定め、市内の病院・開業医のみならず、鹿角地域・北秋田地域の医療機関とも情報を共有し、連携を

強めてまいりたいと考えておりますのでよろしく御理解をお願い申し上げます。

2点目、**スポーツによる地域の活性化について**。①**全国規模のスポーツイベント実施による地域活性化について**であります。大規模スポーツイベントの誘致につきましては、大会参加者・関係役員の宿泊や食事、土産品や特産品の購入など、本市の経済に大きな波及効果が現に発生しておりますし、今後も期待できるため佐藤議員と思いを同じくしているところであります。まさに、スポーツを通じて人も町も育つまちづくりであります。本市では今年度、山田記念ロードレース大会・日本スポーツマスターズ2016秋田大会ソフトテニス競技会・秋田25市町村対抗駅伝ふるさとあきたランなどの大規模スポーツイベントが開催され、会場内に秋田犬ふれあいコーナーや特産品販売ブースなどを設け、延べ7,000人ほどの誘客に結びついております。来年度は、東北総合体育大会やねりんピック秋田2017が本市を会場に開催され、3,000人を超える参加者が本市を訪れる見込みであり、大館の魅力発信の好機であると捉えております。今後も長根山陸上競技場・樹海ドーム・樹海体育館・高館テニスコートを大規模スポーツイベント誘致の主要施設と位置づけ、各種競技団体や関係機関と連携を図りながらさらなる大会誘致に取り組み、交流人口の拡大に努めてまいります。

②**スポーツ施設の整備と利活用について**であります。長根山運動公園内の陸上競技場・野球場などの施設は、昭和54年から58年にかけて建設された施設で経年劣化が進んでいる状況であります。これらの施設の改修については、都市公園区域内にあることから都市公園長寿命化補助制度を活用するなど、負担の軽減を図りながら年次計画に基づいて順次進めてまいります。市内の野球場の改修整備につきましては、球場ごとにさまざまな課題がございます。これまでも緊急度に応じてその整備を行ってまいりました。達子森野球場・田代野球場は硬式野球大会の開催が可能な施設であることから大会の継続招致に支障のないよう、施設の実情を精査し維持に努めてまいります。一方、老朽施設や稼働率が低下している施設については、今後、統合や廃止を行っていく必要がございます。公共施設等総合管理計画に位置づけていきたいと考えております。また、佐藤議員御指摘のとおり、予約の利便性向上も課題となっているところであります。現時点では、指定管理者である一般財団法人大館市体育協会のホームページ上で各施設の空き状況を公開しているほか、遠方の利用者についてはファクスで受け付けするなどのサービス向上に努めているところであります。

③**オリンピックを見据えたスポーツ合宿の誘致について**であります。ことし7月から本市でもスポーツ・文化合宿等誘致促進事業を実施し、スポーツ団体や文化団体への誘致活動を行ってまいりました。利用状況につきましては、11月に1団体43人、延べ宿泊数86泊の利用があったほか、来年2月中旬には青森県内の大学野球部が、3月初旬には岩手県内の大学野球部がこの制度を利用し合宿を実施する予定となっており、合宿中には市内のスポーツ少年団との交流機会を設けることとしております。さらに、3月下旬に樹海ドームを利用した合宿を検討している団体や、5月に樹海体育館を利用して4泊5日のトランポリンの合宿を計画している団



体との調整も行っているところでもあります。また、各種競技団体・大学・スポーツ関連事業者などからの聞き取りによりますと、本市への合宿誘致は対象地域を北海道・東北地方とし、かつ対象競技は野球・ソフトテニス・トランポリンなどが適していると思われることから本市にある各施設の整備状況や自然環境をアピールすることで、利用を検討する新規の団体がふえてくるものと考えております。佐藤議員御提案のとおり、合宿団体と市民との交流は各種競技の普及や技術向上に大きく寄与するものであり、当地域から将来オリンピック選手を輩出できるよう積極的にスポーツ合宿の誘致を推進してまいります。また、各種競技の連盟や関係機関などとの連携をさらに深めながら大規模な大会やイベントの誘致、さらには市が県と連携して現在申請している東京オリンピック・パラリンピック競技大会のホストタウン登録にもつなげてまいりたいと考えております。

3点目、**新庁舎の建設費について。**①**基本計画で示されたとおりの事業費でおさまるのか、**②**事業費が増額されるようになった場合を想定しているのか、**③**市民の声や、そこで働く職員の声が反映されているのか、**この3点につきましては関連がありますので一括してお答え申し上げます。本庁舎建設事業費については基本構想のパブリックコメントなどにおいて、市民の皆様から予算の縮減を求める多くの声をいただいたところであり、基本構想や基本計画の策定に際して常に念頭に置いてきたところでもあります。事業費の算定に当たっては、建設時までの建築物価上昇率を15%、消費税率を10%と想定し積算しておりますが、今回実施した基本設計事業者選定プロポーザルでは基本計画や実施要領において事業費を示し、その範囲内での建築やランニングコスト削減などについての技術提案をいただいたところでもあります。しかしながら佐藤議員御指摘のとおり、東京オリンピック・パラリンピックの施設建設による建築物価の高騰や、市民の皆様などからの要望や提案を踏まえた面積の増加なども想定される場所であり、その際に事業費が増加した場合は金額の多寡にもよりますが、合併特例債の増額や活用できる国の補助金などにより、可能な限り、市の持ち出しを少なくしたいと考えております。現在、各種団体からの意見を聞く場としての大館デザイン会議と、公募市民の皆様からの意見を聞く場としての市民ワークショップを開催しております。さらに今後、基本設計案に対するパブリックコメントを実施する予定としております。また、これまでいただいたパブリックコメントでの要望や各種団体からの要望についても設計事業者にお伝えしておりますので、事業費の増加に留意しつつも市民の皆様への要望に可能な限りお応えできるよう基本設計を進め、設計案が固まり次第、議会に御相談申し上げたいと考えております。

以上であります。よろしく御理解を賜りますようお願い申し上げます。**(降壇)**

○13番（佐藤久勝君） 議長、13番。

○議長（仲沢誠也君） 13番。

○13番（佐藤久勝君） 1点目の病院の質問に関して、各病院では診療報酬の改定が2年に1回行われており、今回は平成30年度が改定年度になります。少子高齢化や医師不足が問題に

なると思いますが、秋田県や圏域の病院とよく話し合っ、平成30年度にはある程度話が進むような方向で進めてもらいたいと思っております。

2点目のスポーツ施設の関係です。高校の硬式野球大会は、県北地区では夏の甲子園に向けての春季大会、秋は春の甲子園に向けての新人戦が行われます。県北地区の会場は、大館市と能代市で交互に開催されております。しかしながら大館会場は、達子森野球場が使えないという現状で田代野球場で行われております。ことしの秋の新人戦は大館会場であり、田代野球場で行われました。決勝戦が雨により順延し、また、球場の水はけが悪いということで、今回は能代市に移動して決勝戦が行われました。このままでは今まで大館市でできた大会が能代市で行われるのではないかと心配しております。大館会場で行われる場合は責任を持って開催できるよう、ぜひ、早目の整備をお願いしたいと思いますがいかがでしょうか。

○市長（福原淳嗣君） 議長。

○議長（仲沢誠也君） 市長。

○市長（福原淳嗣君） ただいまの佐藤議員の再質問にお答えいたします。質問項目は2点ということでございます。1つ目は病院経営関係に関して診療報酬の改定も含めて、2つ目は野球場を含むスポーツ施設に関してお答えいたします。1点目の診療報酬も踏まえた病院経営の改革については、佐々木病院事業管理者とも話ししておりますが、地域包括ケア病棟・認知症疾患医療センターも含め効果が確実に出てきております。そうした経営改善の流れがある一方、国が進めていくのは在宅における医療・介護の連携という側面がございます。ここはきちんと見据えていきながら佐々木病院事業管理者とも話し合いをさせていただいて、この分野についても損がないよう進めていきたいと考えております。

2点目の野球場を含むスポーツ施設の充実に関しましては、状況を教えていただきましたので、確認の上、関係団体と協議をさせていただきたいと考えております。御理解を賜りますようお願い申し上げます。

---

○議長（仲沢誠也君） この際、議事の都合により10分間休憩いたします。

午後2時39分 休 憩

---

午後2時50分 再 開

○議長（仲沢誠也君） 休憩前に引き続き、会議を開きます。

阿部文男君の一般質問を許します。

〔9番 阿部文男君 登壇〕（拍手）

○9番（阿部文男君） 皆様お疲れさまでございます。市民の声を市政に届ける活動をさせていただいている平成会の阿部文男でございます。それでは通告に従い一般質問に入りたいと思います。

初めに、**観光交流拠点としてのハチ公の駅建設とDMOの進め方について**申し上げます。

私は、昨年の6月議会の一般質問で大館駅舎の改修及び駅前広場の土地利用について、また、旧小坂鉄道・旧花岡鉄道駅舎の復元について質問をさせていただきました。その後、早速と駅前地区の開発事業に取り組んでいただいたことに対し、まずはお礼を申し上げたいと思います。さて、既に周知のとおり、市では大館駅前を市の玄関口としてふさわしい観光交流拠点と位置づけ、整備を進めようとしているところですが、今後の整備計画について市民の要望を把握するためのアンケートを実施し、商工業団体や周辺住民向けに説明会を開いていることが地元新聞に掲載されていました。その中で周辺住民の方から「この駅前開発事業は、御成町一丁目と御成町二丁目北区のどちらが中心地区になっているのか」と質問があったとのこと。私としてはハチ公の駅は駅周辺住民のためだけではなく、大館市民全体のためのまちづくり事業であってほしいと考え、昨年一般質問したのでありますが、現在の事業の進め方では駅周辺の整備だけに終始してしまうのではないかと危惧しております。観光の拠点となるべきハチ公の駅は、大館市全体が「元気な大館、観光のまち大館」になるための重要な第一歩目の事業でなくてはならないと考えております。例えば、秋田犬を常時見たり触れたりできるような施設を旧小坂鉄道跡地に建設する予定であります。大館駅からの距離も少なからずあるようですし、一旦外に出てからの移動となれば、なかなか足を向けてくれる観光客もいないのではないかと考えます。また、中には犬嫌いの人やアレルギーのある人がいるかもしれません。秋田犬との触れ合いだけの施設では観光客を呼び込むことは難しいのではないかと考えております。そこで、私からの提言ですが、大館には秋田犬だけではなく、大館曲げわっぱ・大館きりたんぼなど観光の目玉となる産業や食文化があることを忘れないでいただきたい。大館を訪れた人たちに、ぜひそれらを体感していただけるような施設を大館駅のより近い場所に建設することや、渡り廊下のようなコンコースを併設し移動できるよう、再検討をお願いしたいと思います。次にDMO（ディスティネーション・マネジメント、マーケティング・オーガニゼーション）の今後の進め方についてですが、本市が加入するDMOは、要約すると交流人口の拡大による地域活性化を目的としています。観光客が幾ら大館市に来ても、閑散としていたり商店街のシャッターが軒並み閉まった状態であれば地域が活性化されているとは言えません。先日、私はこのような記事を見つけました。ツーリズムエキスポジャパンが日本版DMOについて開いたセミナーで、DMO推進機構代表理事の<sup>おおこそ</sup>大社充氏が「住んでよし、訪れてよし」という基本理念を強調して講演された記事です。その中で観光とまちづくりを統合して進める観光まちづくりの視点について語っていたことは、**観光まちづくりとは、観光による交流人口の拡大を通して住民の暮らしの質の向上を目指すものである**というものでした。そして、大社氏は「地域住民がハッピーでないと意味がない」と言い切っております。まさにそのとおりで、私がDMOというものに対して抱いていた懸念、いま一つ頭の中で整理できなかつたことが一気に解決した気がいたしました。さらに、観光まちづくりは行政と観光業者だけではなく、農業・商

業・工業その他あらゆる職業に携わる人たちや、NPO・一般市民などが参画して官と民の壁を取り除き、その道のプロフェッショナルな人材を登用しての広域DMOの設置が必要であると説いております。市でもぜひ若い人の視点、異業種間の意見交換から生まれる新しい発想、迅速な行動力などを大いに生かして、特産品のブランド化や農産物の安定供給、そして観光客の誘致などに力を発揮してもらえよう環境を早急に整えてもらいたいと考えております。そのことが将来的には新しい雇用を生み出し、人口減少が少しでも緩和される大切な要因になっていくのではないかと考えます。まずは、地元住民と近隣市町村の交流によってお互いの町の交流人口の拡大に力を注ぐべきではないかと考えております。実は11月24日、25日に、虻川会長を初めとする我々平成会有志一行は、地域連携DMOの理念のもと仙北市角館町へ出向き、議員との交流を行ってまいりました。秋田内陸線を有効に活用して双方の町が元気になるためにも、もっと多くの地域が綿密に連携して情報交換や意見交換を行う機会をふやし、お互いのまちづくりにも積極的にかかわっていきこうと話し合ってきたことをここで御報告させていただきます。また、今大ヒットしているアニメ映画「君の名は。」に登場する駅に似ている前田南駅があると話題になっている秋田内陸線についてですが、春の角館桜まつり・夏の大館大文字まつり・秋の大館きりたんぽまつり・冬のアメッコ市等の各イベント時だけでも、秋田内陸線を大館駅まで延伸させる運動を検討していただけないか、市長のお考えを伺いたいと思います。

次に、**歴史まちづくり**についてです。先ほどから述べているハチ公の駅やDMOと観光客の誘致という点で重なる点もありますが、市長が熱心に進められている歴史まちづくりについて少し述べさせていただきますと思います。ここ大館は古くは藤原泰衡終えんの地として知られ、佐竹西家の支配による武家社会であった歴史と、もう一つは近代国家建設の礎ともなった鉾山の町、いわゆる企業城下町としての歴史もあるのであります。市長としてはどちらの歴史に重点を置いて歴史まちづくりを進めていくお考えなのかお聞かせ願いたいと思います。今の時点では武家社会であったころの名残はところどころにあります。シンボルとなるべき大館城は戊辰戦争時に焼失したままになっております。私には今のところそのほかの歴史上の遺構が思いつきません。何を目玉にして歴史まちづくりを考えているのか、また、どのような事業を進めていくお考えなのかお聞かせ願います。先ほども申し上げましたが、ここ大館は鉾山の町でもありました。花岡鉾山・釈迦内鉾山、近隣の小坂鉾山・尾去沢鉾山などは日本有数の一大鉾産地でありましたが、昭和50年以降、相次ぐ閉山により一気に衰退していったのであります。その跡地、または周辺に残っている鉾山施設の名残を利用しての観光事業を考えておられるのでしょうか。市の担当者や有識者の方たちといろいろ御相談されているとは思いますが、早い時点で方向性を決めていただき、例えば道路の整備・拡幅や家の新築などに当たって、歴史のある構造物などが失われてしまわないような措置を講じていくことも早急に必要であるとと考えております。歴史まちづくりのために昨年各地で座談会を開き、地区の歴史などを詳しく聞き取り調査した模様ですが、地域に伝わってきた大切な歴史の一つ一つをぜひ歴史まち

づくりに生かし、それらの**地域の歴史を後世まで残していく手だてを考えていただきたい**と思っております。11月27日付の地元新聞に、本庁舎建設予定地から県内でも発見例の少ない、池と考えられる大きな穴が見つかったと掲載されておりました。この貴重な遺構を今後どのように活用していったらよいのか考えを述べさせていただきたいと思っております。私は、庁舎の床をその部分だけでも耐久ガラス張りにして、庁舎を訪れる人がいつでも自由に見学できるような庁舎づくりにできないものかと考えています。これは歴史まちづくりの認定についても大きく影響を及ぼす遺構ではないかと考えております。市長のお考えをお聞かせください。

最後に、**災害対策拠点としての大型道の駅の必要性について**申し上げます。ことしも地震・台風、火山の噴火など災害列島日本ではさまざまな災害が起きました。幸い、ここ大館では大きな災害はまだ起こっておりませんが、いつ何どき災害に見舞われるのかは誰にもわかりません。自分や家族の安全を守るための知恵と工夫がますます必要になってくると考えられます。しかし、いざとなったとき私たちは落ちついて行動できるでしょうか。多分慌てふためいて防災訓練での経験など忘れ、防災袋も持たずに家を飛び出すなど右往左往することと思えます。ライフラインが分断されれば孤立状態になります。ふだんどれほど防災訓練をしても、孤立してしまえば食料も燃料もない状態で、どこからか助けが来るのをじっと待っていません。そこで私は、大館市に災害対策の拠点となるべき大型の道の駅を設置すべきではないかと考えました。日常的には観光客を呼び込むことで生産者・販売業者の収益拡大につながる利点があります。そして、緊急時には市民の避難場所とし、その際の食料・燃料やその他必要となるものの備蓄のためにも、**地方創生・災害対策の拠点としての役割を担う大型道の駅の設置計画**をぜひ御検討いただきたいと思っております。市長の御所見を伺いたいと思っております。福原市長におかれましては在任20カ月になりましたが、この間秋田犬ツーリズム・歴史まちづくり・駅前開発などいろいろな方面に目を向け行動されてこられました。就任以来アクセルを踏み続けているようにも見受けられます。ここで少し立ちどまって、これからの大館市のビジョンをもう一度じっくり考えていただきたいと願っております。今この町のためにやるべきこと、やらなくてはならないことをまず優先して行っていただきたいと思っております。市長はお若いですし、オールラウンダーであることは承知しておりますが、市民側にしてみれば一度に何もかもでは、現在どの施策に重点を置いて進めていこうとしているのか何も見えない状態になっているのではないかと思います。いま一度、市民の声にも耳を傾けていただき、今取り組んでいる事業のあらましや事業の進捗状況などが市民にわかるようにしてもらいたいと思っております。市民と一緒にこの先50年、100年後の大館のあるべき姿を考え、市民の納得する形で大館市をつくっていただきたいという気持ちでございませう。大館市の改革に取り組んでいただきたいと願っております。

元気な町、大館のまちづくりに一緒に頑張りましょう。以上です。(拍手)(降壇)

〔市長 福原淳嗣君 登壇〕

○市長（福原淳嗣君） ただいまの阿部議員の御質問にお答えいたします。

1点目、**観光交流拠点としてのハチ公の駅建設及びDMOの進め方について。交流人口の拡大による地域活性化を進め、暮らしの質の向上を目指していただきたいと思う**についてであります。あきた未来づくりプロジェクト事業や都市再生整備計画事業などを活用して建設する「(仮称)ハチ公の駅」は、観光交流拠点として大館駅周辺の整備事業とあわせることにより、秋田内陸の北の玄関口、さらには北東北の拠点・ハブとして核となるエリアを目指すものであります。阿部議員御提案の曲げわっぱの体験やきりたんぽなど、伝統工芸・食文化を体感できる施設を大館駅近くに建設できないかとの提言についてであります。未来づくりプロジェクト事業などによる大館駅周辺の整備は、官としての事業を先行させることによる、地域が発展するためのプラットホームづくりと捉えていただきたいと考えております。伝統工芸や食文化などの民の活力が生まれ出るような、これからの大館市の未来を位置づける事業であると考えております。また、阿部議員が話された交流人口の拡大による地域活性化のためのDMOの存在意義、そして、観光まちづくりは行政と観光事業者だけではなく、農業を初めとするあらゆる産業や市民が参加して進めるべきであるという点につきましては、私も大いに賛同できるものであります。まさに官と民の連携であり、言いかえるならば民をもって官を補うということであります。地域連携DMOである一般社団法人秋田犬ツーリズムは人口が減少しても、そこに住む方々が自分の足でしっかりと立ち続けることを目指し、地域の価値を磨きながら信頼される地域というブランド化を図ることを通じて、交流人口の拡大による地域の活性化を目的として、大館商工会議所会頭を会長に観光・金融など多方面の方々に参加いただいて設立されたものであります。まさに観光産業こそは大館市の総合産業であるという認識であります。これらの目的を達成するためには阿部議員が御指摘されたとおり、若い人・若い世代の視点、異業種間の意見交換から生まれる新しい発想、そして迅速な行動力が必要であります。秋田犬ツーリズムはその要素を兼ね備えていると認識しております。これらを生かして広域的な連携を進めながらその役割を担ってくれるものと確信しております。また、秋田内陸線の大館までの延伸運行につきましては大変貴重な御提案であると捉えております。秋田犬ツーリズムを構成する北秋田市・小坂町・上小阿仁村並びに3D連携の仙北市と緊密に連携するとともに、JR・秋田内陸線とも協議を進めていきたいと考えております。

2点目、**歴史まちづくりについて。地域の歴史を後世まで残していただきたいと思う**についてであります。初めに阿部議員から御質問されました武家社会の歴史と鉱山の歴史のどちらに重点を置くのかについてであります。私にとっては、いずれの歴史も大切に残していきたいというのが正直な思いであることを申し上げたいと思います。しかしながら歴史まちづくり法に基づく国からの支援制度は、国指定の重要文化財を含む50年以上脈々と続く市民の営みと建造物が連なる重点区域に限定されております。そこで、歴史的風致維持向上計画の策定に当たっては、国指定重要文化財を含む城址公園周辺や神明社祭典の活動、そして秋田犬やその像

を守り育ててきた大館駅を含むエリアを重点区域に設定し、年度内の認定と来年度からの事業化を目指しているところであります。阿部議員御指摘のとおり、大館城跡は確かにその多くが失われておりますが、往時がしのばれる堀や土塁、桜櫓館など貴重な建造物を保全しながら桂城公園を中心とした、まち歩きをしたくなるような環境整備を図ってまいります。まずは、この計画の認定を得ることが第一であり、認定後に少しずつ成果を積み重ねていくことで、鉾山の歴史など本市の歴史・文化・伝統に光が注がれる機運の高まりにつながるものと考えております。また、各地区に伝承されている祭礼や歴史資源の継承につきましては、地域の皆様の強い思いやニーズを確認したところであります。これらに応えるため、地域応援プランでの支援を初め多様な取り組みを市民と一緒に築くことができるよう、ソフトのメニューの充実に努めてまいります。なお、どれほどすぐれた資源や遺構であっても、その後の活用や市民の営みが伴わない場合は、施設の保全に多額の費用を投入することが難しくなります。この点に関しまして、先ほど阿部議員から貴重な御意見を賜りましたことに関して御礼申し上げます。遺構につきましては記録にとどめるだけのものや、現状の保存を義務づけられるものなどさまざまな方策が考えられます。今後、基本設計においては県や専門家との協議を含め、御意見を参考に検討してまいりたいと考えておりますので御理解をお願い申し上げます。

**3点目、災害対策拠点としての大型道の駅の必要性について。地方創生・災害対策の拠点としての役割を担う大型道の駅の設置を**についてであります。ことしも熊本地震を初め、台風10号による岩手県岩泉町の洪水、鳥取県中部地震など日本各地でさまざまな大規模災害が発生しております。市でも地域防災計画で想定している震度6弱を上回る熊本地震のような直下型地震の発生を危惧しているところであります。大規模災害が発生した場合は、それに対応できる災害対策拠点の確保が必要となります。平成16年の中越地震などでは道の駅が被災された方の避難場所として、また、災害復旧支援車両の活動拠点として活用されており、大型道の駅や類似施設など拠点となる施設の必要性を強く認識しております。このような大型道の駅の視点を着実に実行しているのが、高速道路株式会社のグループであります。サービスエリアあるいはパーキングエリアを、いざというときの災害対策拠点として着実に整備しているところであります。こうした脈絡のもと、市における道の駅については休憩機能・情報発信機能・地域連携機能を持っていることが登録要件となっており、多くの人が利用できる施設でなければなりません。そのため、多くの道の駅はレストランや農産物直売所などを併設し、日常的に観光客を呼び込むような施設整備を行い、交流人口の拡大や特産物の販路拡大などにつなげているところであります。阿部議員御提案のとおり、本来の道の駅の機能に加え、災害対策拠点としての機能を持つことにより災害時の活動機能が大きく高まることが期待されるため、市内2つの道の駅や近隣市町の道の駅との関係も考慮しながら道路管理者とも連携し、慎重に検討してまいります。現に、能代河川国道事務所の呼びかけによる東北の首長の意見交換会におきましても、日沿道開通を見据えた中での道の駅の連携はテーマに上がっております。その点も含め

まして今後とも検討してまいりたいと考えております。そして、「市長は就任以来ずっと走り続けている。ここで一度立ちどまり市民と一緒に考えてみてはどうか」という阿部議員からの御提言に関しましては、私の体調も含め御厚情をいただいておりますことに心から深く感謝を申し上げたいと思います。ただし、私自身の市の長としての認識は、もし今が徳川の太平の世のようであるならば「名村副市長、高橋教育長、後は頼む」という状況であったと思います。しかし、人・金・物・情報が着実に減っていき、人口7万5,000人を切っている大館市をこれから切り盛りしていく中では、やはり市長として今は立ち居振る舞わなければならないと思っています。人口は着実に減っていますが、大館市と新しいことをなそうとする自治体は逆にふえています。函館市・弘前市・八峰町・藤里町・上小阿仁村・北秋田市・小坂町・仙北市など、もっとその輪を広げていきたいと考えております。そして、私の次の第6代目の市長を初めとする市政運営が始まったときに、その果実を享受できるように、その日まで一生懸命頑張りたいと思います。よく私が副市長や教育長に話をしているのは、毎朝公用車が迎えに来るときに「露と落ち露と消えにし我が身かな浪速のことも夢のまた夢」と必ず念じて車に乗るということです。私自身2期8年の市議会議員の経験とキャリアをリセットしてでも、どうしても国政を学ばせていただきたかった。その先にあるものを今は市のために実現させていただいております。11月に私はほとんど市役所におりませんでした。しかし、それが今までの期成同盟会頼みの要望活動ではない新しい形をつくり出しており、それが北鹿を守り、県北を導き、秋田を動かす政治につながっていると確信しているところであります。いずれ私は大館市長ではなくなります。政治家を引退します。そのときに改めて振り返りたいと考えておりますので、どうか御理解を賜りますようお願い申し上げます。(降壇)

---

---

○議長（仲沢誠也君） 以上で、本日の一般質問を終了いたします。

次の会議は、明12月6日午前10時開議といたします。

本日はこれにて散会いたします。

午後3時20分 散 会

---

---